

Portfolio

Zhou Yuru

Zhou Yuru

周 雨茹

シュウ ウジヨ



シュウ ウジヨ

Education

- 1999 中国江蘇南京市生まれ
- 2017 南京建業高等学校 卒業
- 2021 南京芸術学院工業デザイン学部 卒業
- 2023 日本安達日本語学校 卒業
- 2024 東京デザイナー学院 卒業見込み

Profile

南京芸術学院工業デザイン学部ディスプレイデザインを学び。大学で様々な空間を課題に試した。主には商業施設や博物館。作品を作る時、観客の空間体験を最も意識する。

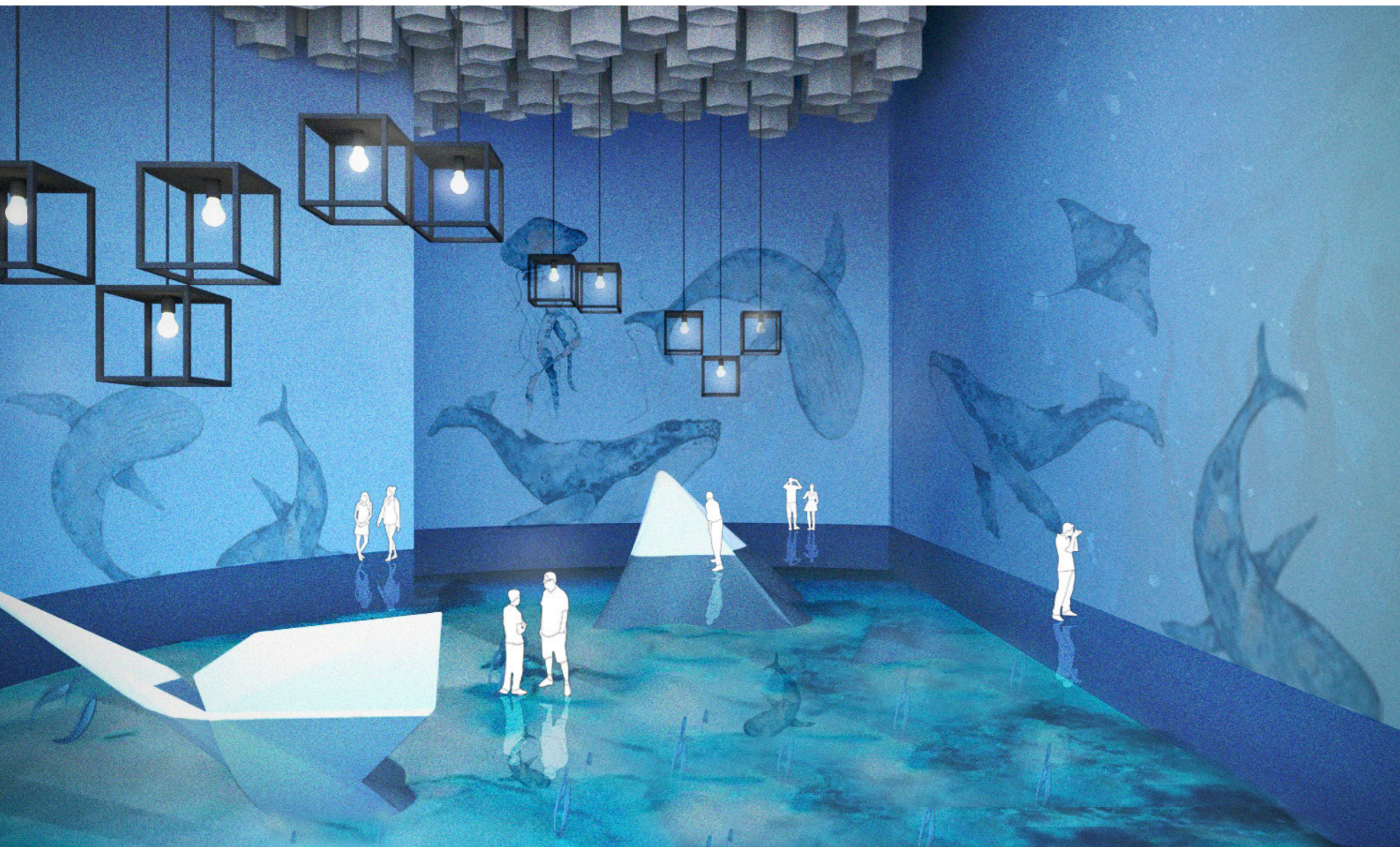
特技 日本語能力試験 N 1 (2022 年 7 月取得)
College English Test Band 4 (CET-4) 取得

趣味 舞台鑑賞 散歩 折り紙

- 2018-2019 学院優秀学生奨学金
- 2019-2020 学院優秀学生奨学金
- 2020-2021 学院優秀学生奨学金
- 2020-2021 第八回全国大学生デジタル芸術デザイン大会 華東地域一等賞
全国三等賞

Software Skill

Photoshop	■ ■ ■ ■ ■
Illustrator	■ ■ ■ ■ ■
InDesign	■ ■ ■ ■ ■
AutoCAD	■ ■ ■ ■ ■
sketchup	■ ■ ■ ■ ■
procreate	■ ■ ■ ■ ■
3Dmax	■ ■ ■ ■ ■
Premiere	■ ■ ■ ■ ■
Vectorworks	■ ■ ■ ■ ■



海と私たち

制作時間：2021年1月
位置関係：中国上海
タイプ：工場改造&ディスプレイ

地球の約7割は海といわれており、そこには多くの生物が住んでいます。私たちは陸に住んでいますが、海に助けられ、また海で生まれた資源を消費して生きています。しかし、私たち人間のこれまでの活動により、海が汚染され続け深刻な状況にまで陥っています。

本作品は、絶滅寸前の魚の視点に立ち、現在海に存在する環境問題や海洋生物が直面する危機を体感することを目的としています。

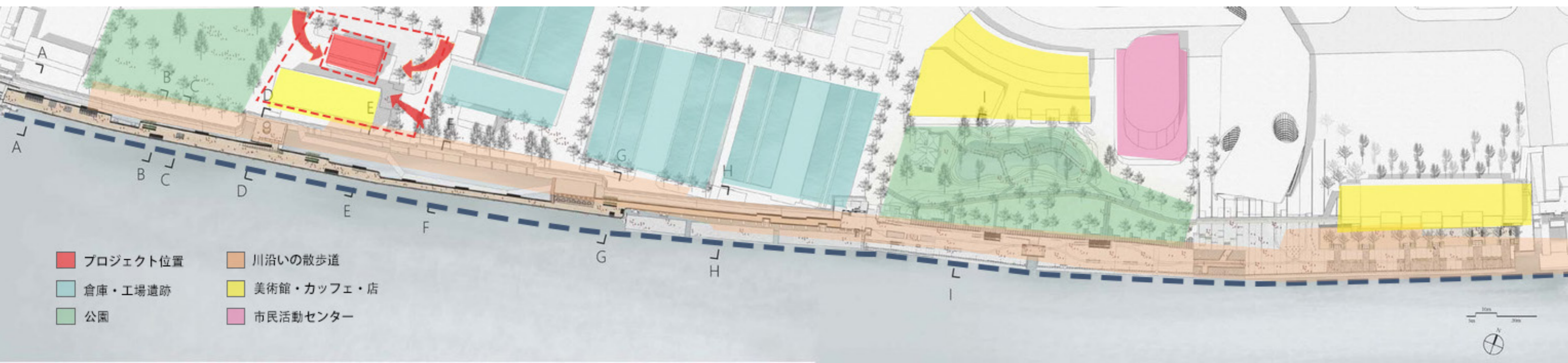
「私」の体験を通して、「私」の死が理解される。来場者は、物語に参加し、体験し、海洋生物の生と死について考えることができるのです。

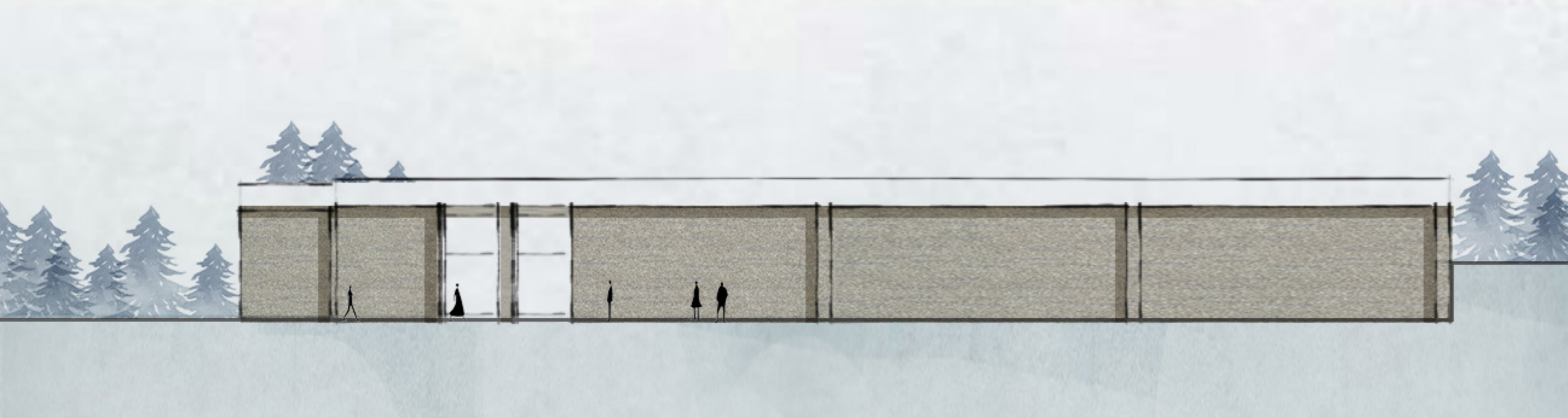


ロケーション分析

ロケーション

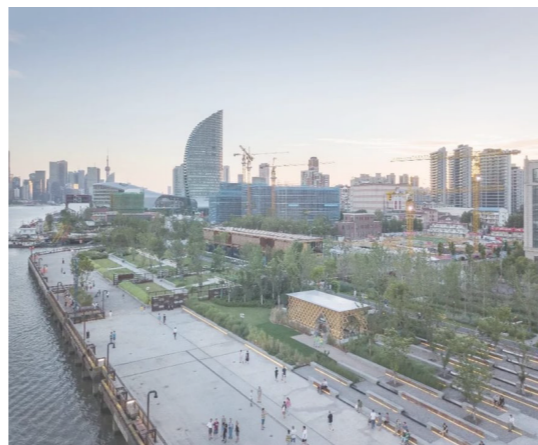
このプロジェクトの敷地は、上海の楊浦濱江にある使われなくなった倉庫です。楊浦の川沿いはもともと工業地帯で、工場や倉庫、ドックなどが数多く立ち並んでいました。1980年代から1990年代にかけて、楊浦河畔の工場は徐々に閉鎖され、当局は楊浦河畔をウォーターフロントとビジネス空間として整備しはじめた。





プロジェクトの敷地は上海の楊浦河畔に位置し、周囲は廃工場と自然環境に囲まれる

周辺環境



19世紀から20世紀にかけて建設された、上海機械製造局、瑞吉毛糸工場、瑞榮造船所、楊修普水庫など300以上の古い工業工場は、上海の近代産業の勃興を見守ってきたのです。1990年代の都市再開発により、楊浦の川沿いにあったこれらの工場は、徐々に歴史の舞台から退いていった。

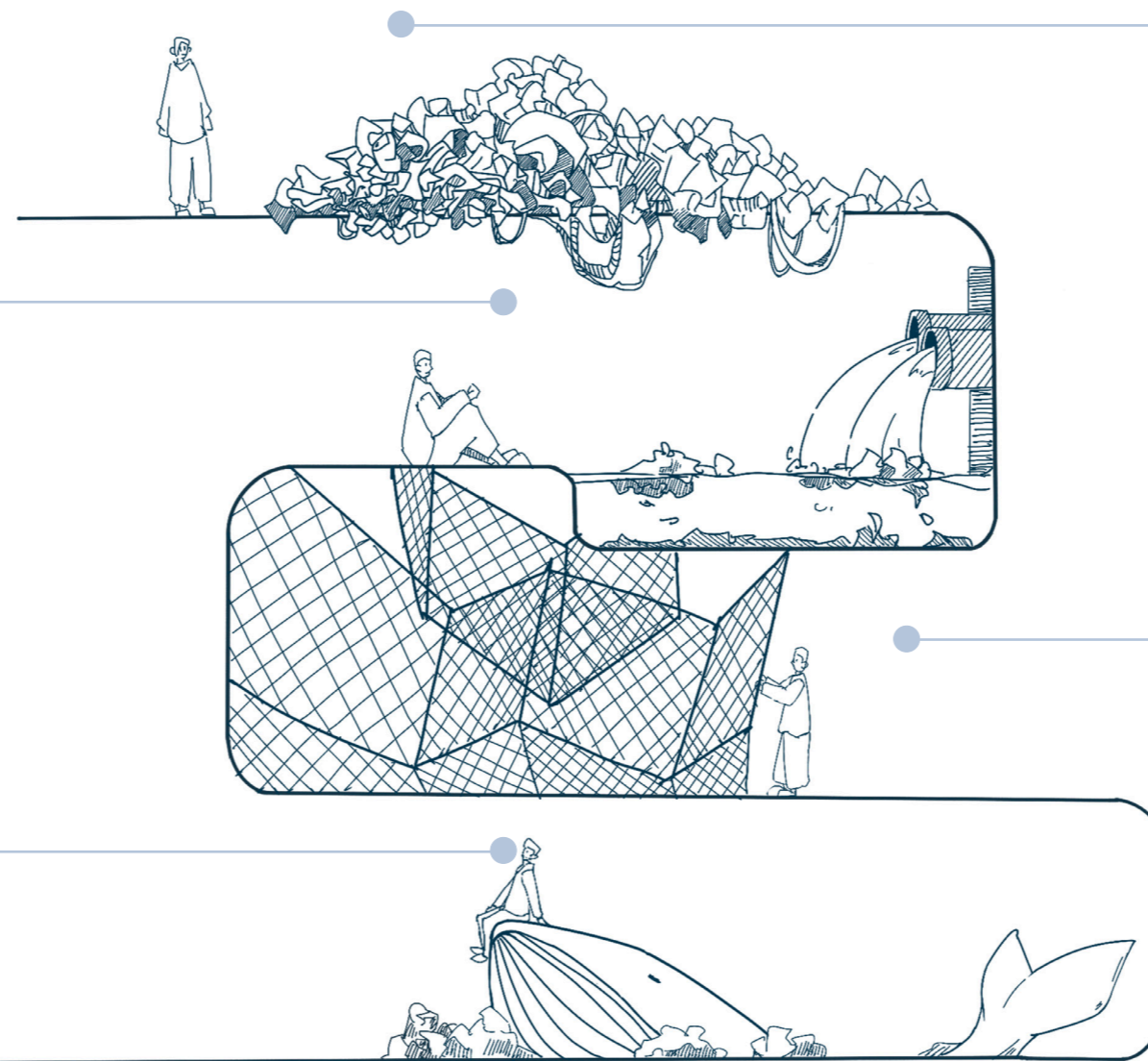
ストーリーライン



- ② その時、濁った水の中に入ってしまい、その臭いがとても気になりました。目の前の道路が見えないので、出口を探し回って脱出することになった。途中、死んで久しい魚の死体が浮いているのを見た。この濁った水の中にある魚の腹の白さは、とても恐ろしいものでした。



- ④ 海の底で、鯨の死骸がゆっくりと海の間に沈んでいくのが見えた。その死骸はさまざまな生物によって分解され、多くの海の生き物の食料となった。そして、そのようなユニークな生態系が、海に新しい種をもたらすのです。



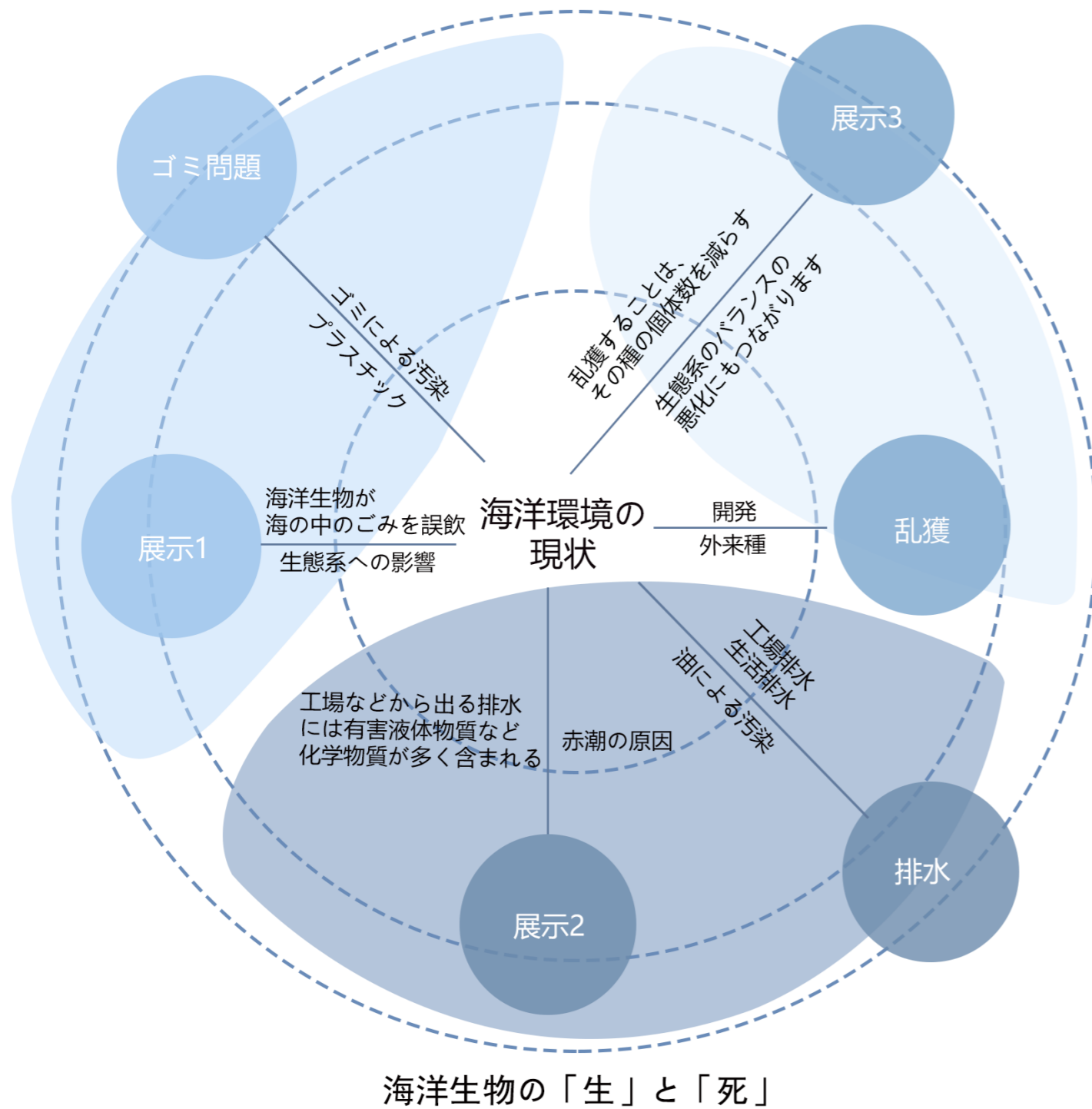
- ① 私は家を失い、孤独な旅に出ることになった。ここで、ゴミに絡まった亀を見ました。甲羅が変形しており、もうすぐ死んでしまうことが分かりました。また、ゴミを食べて死んでしまった海の生き物も、捨てられたゴミと一緒に海面に漂っていた。



- ③ 旅を続けていると、空から漁網が降ってきて、陸に上がりそうになった。「私」は逃げましたが、周りの魚はみんな人間の船に連れて行かれてしまいました。見ていて恐ろしかったが、どうすることもできなかった。



死は新たな生命をもたらすことができる。
では、人間と自然はいつ友好的に共存できるのだろうか。



ディスプレイ全体は、ゴミ、汚水、乱獲の3つのセクションに分かれています。最終的に鑑賞者は、これまでの空間の体験を通して、海洋生物の「生」と「死」について考えることとなります。

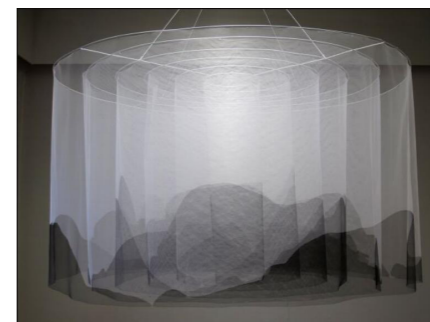
展示スペースに使用されている素材

展示 1



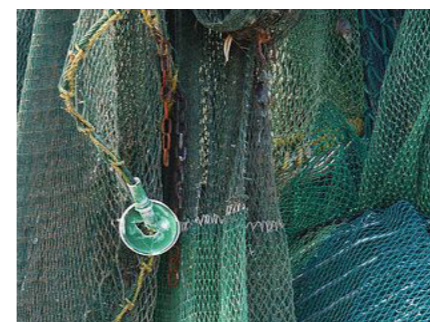
魚のおもちゃとゴミ

展示 2

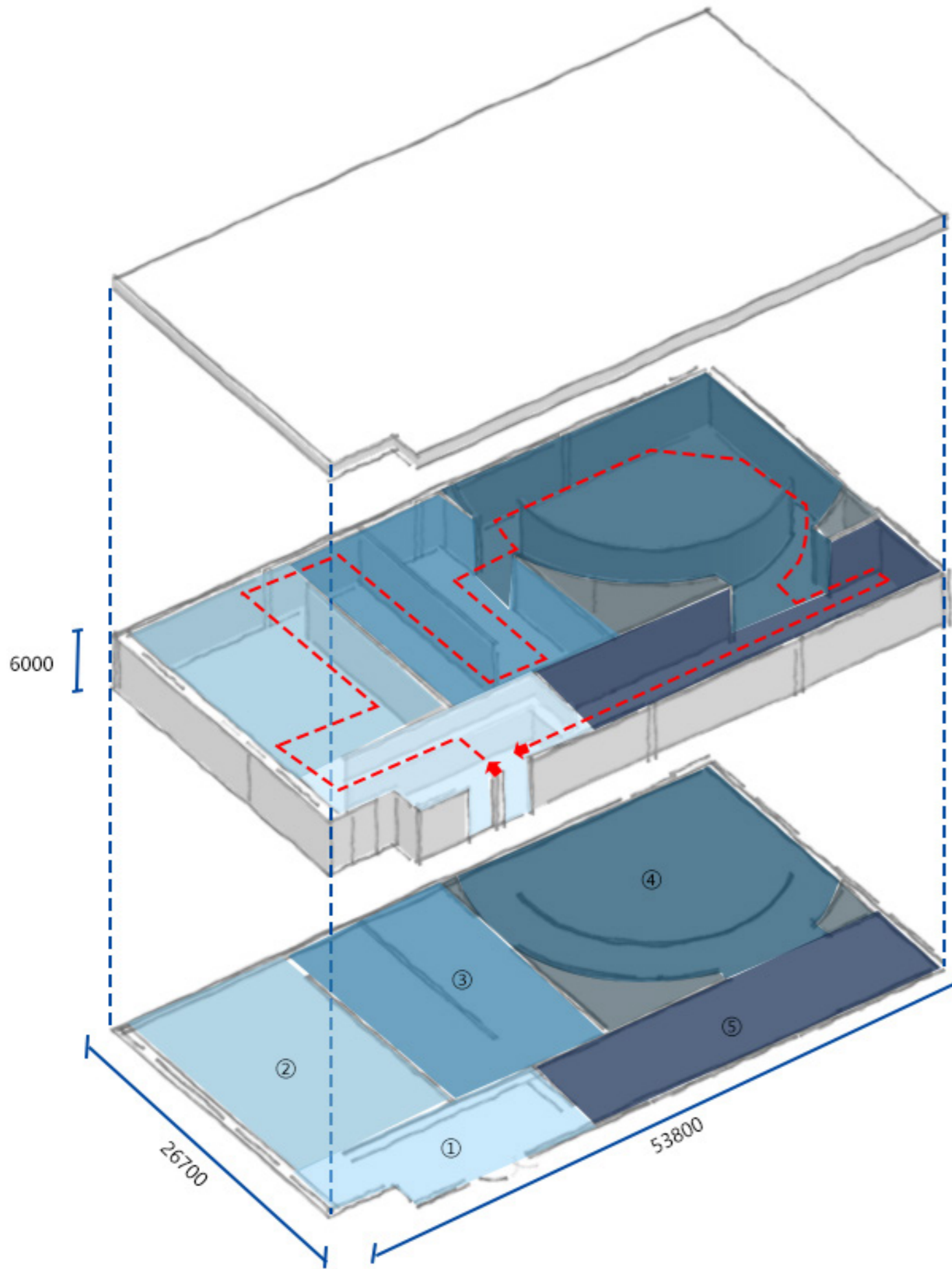


魚のおもちゃとゴミ

展示 3



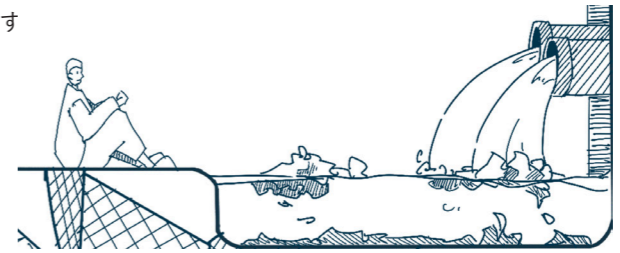
漁網



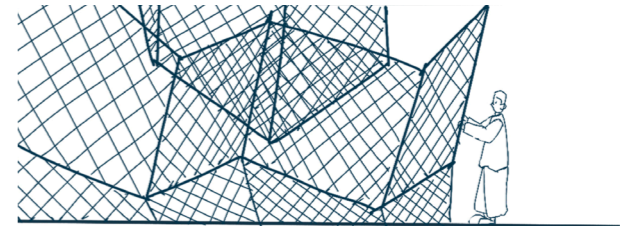
①展示1 ---ゴミ
魚のお腹にゴミを引き出す



②展示2 ---排水
濁流の中で出口を探す



③展示3 ---乱獲
漁網から脱出



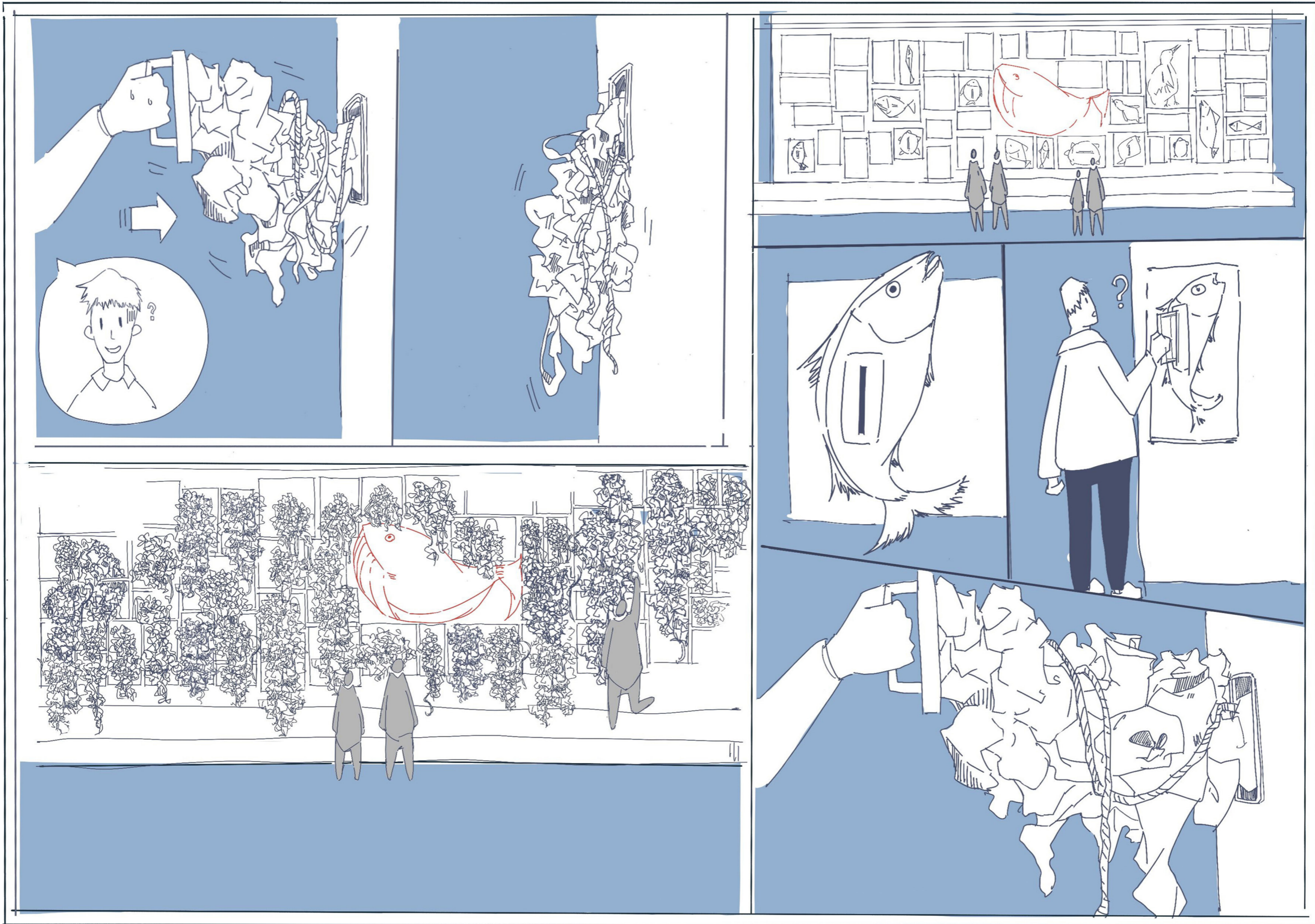
④展示4 ---体験、思考
海洋生物の「生」と「死」を思考される



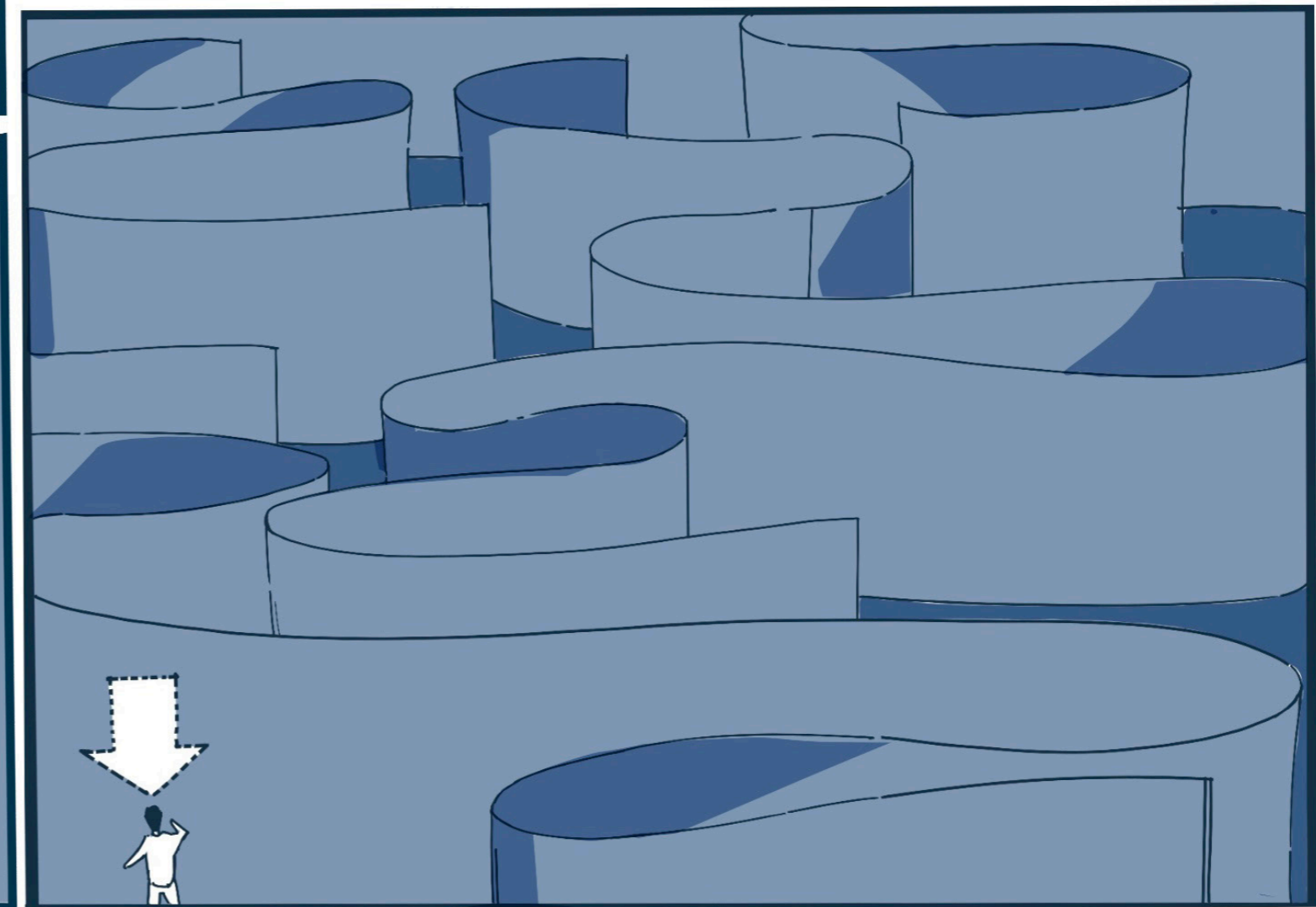
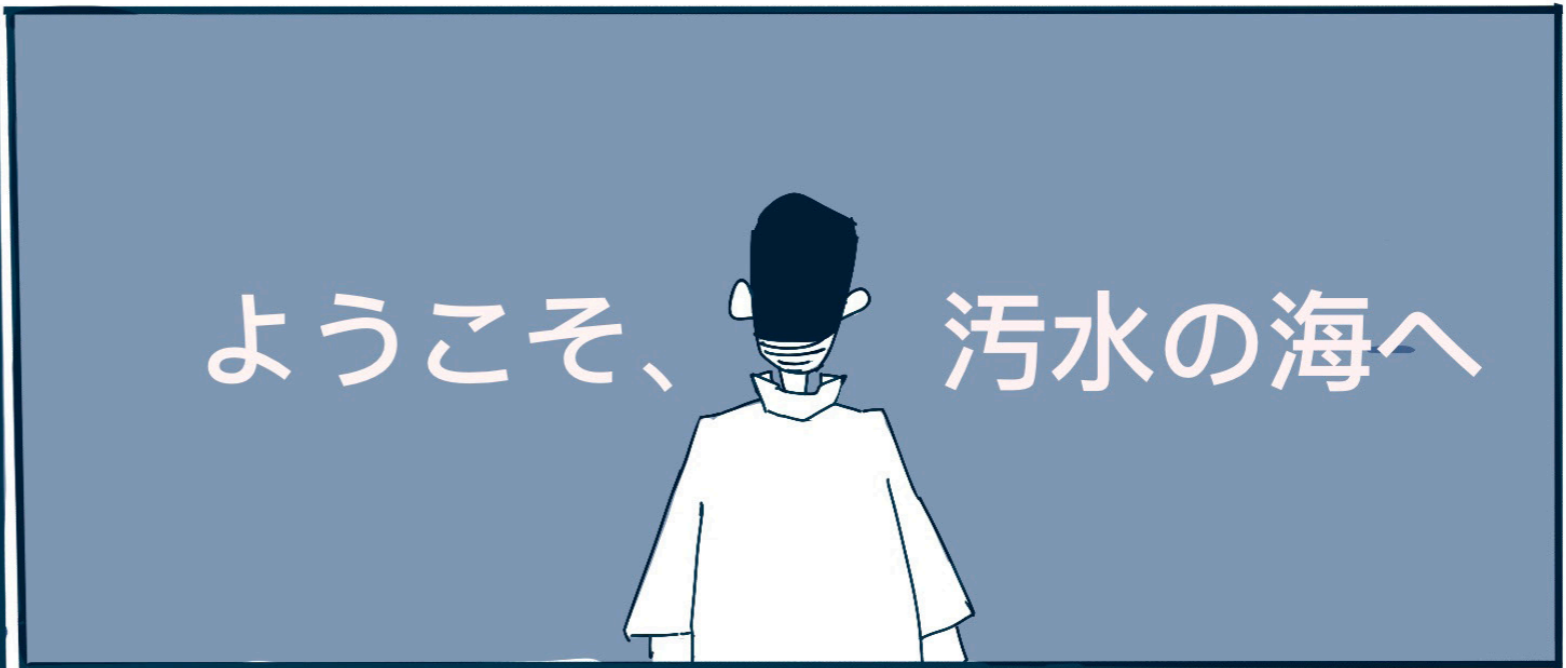
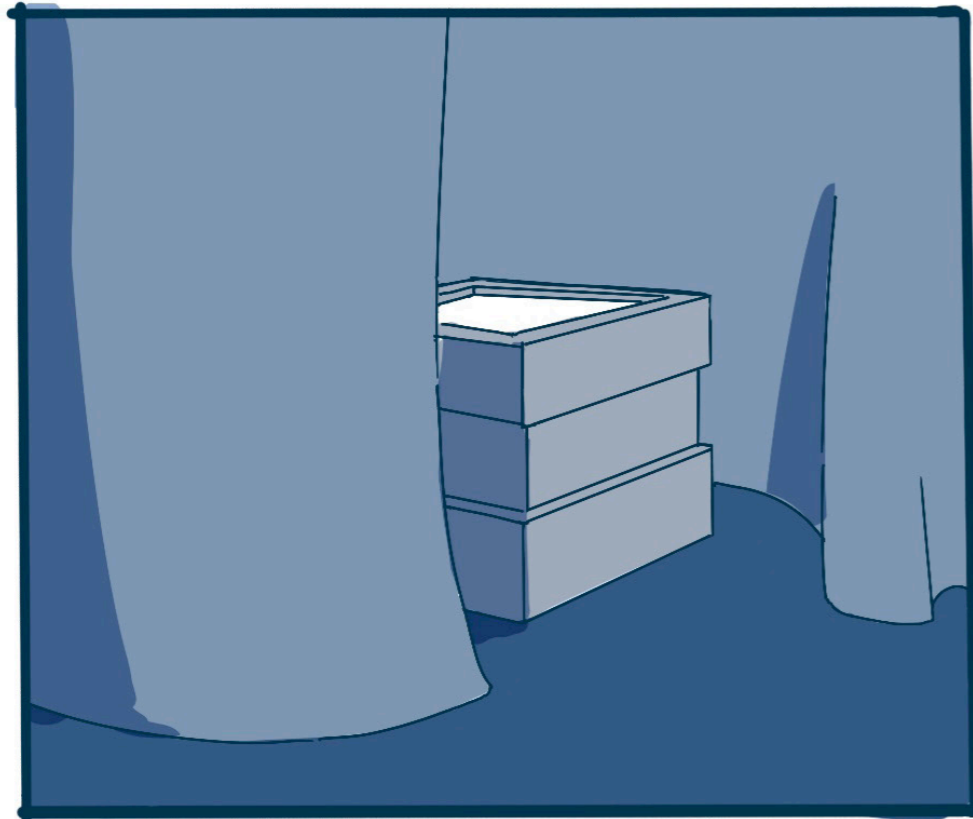
⑤周辺グッズショップ

始まった空間全体が終わるとき再び戻ってくる。最初の空間が時間とともに変化している。

展示1 ーーゴミ
魚のお腹にゴミを引き出す



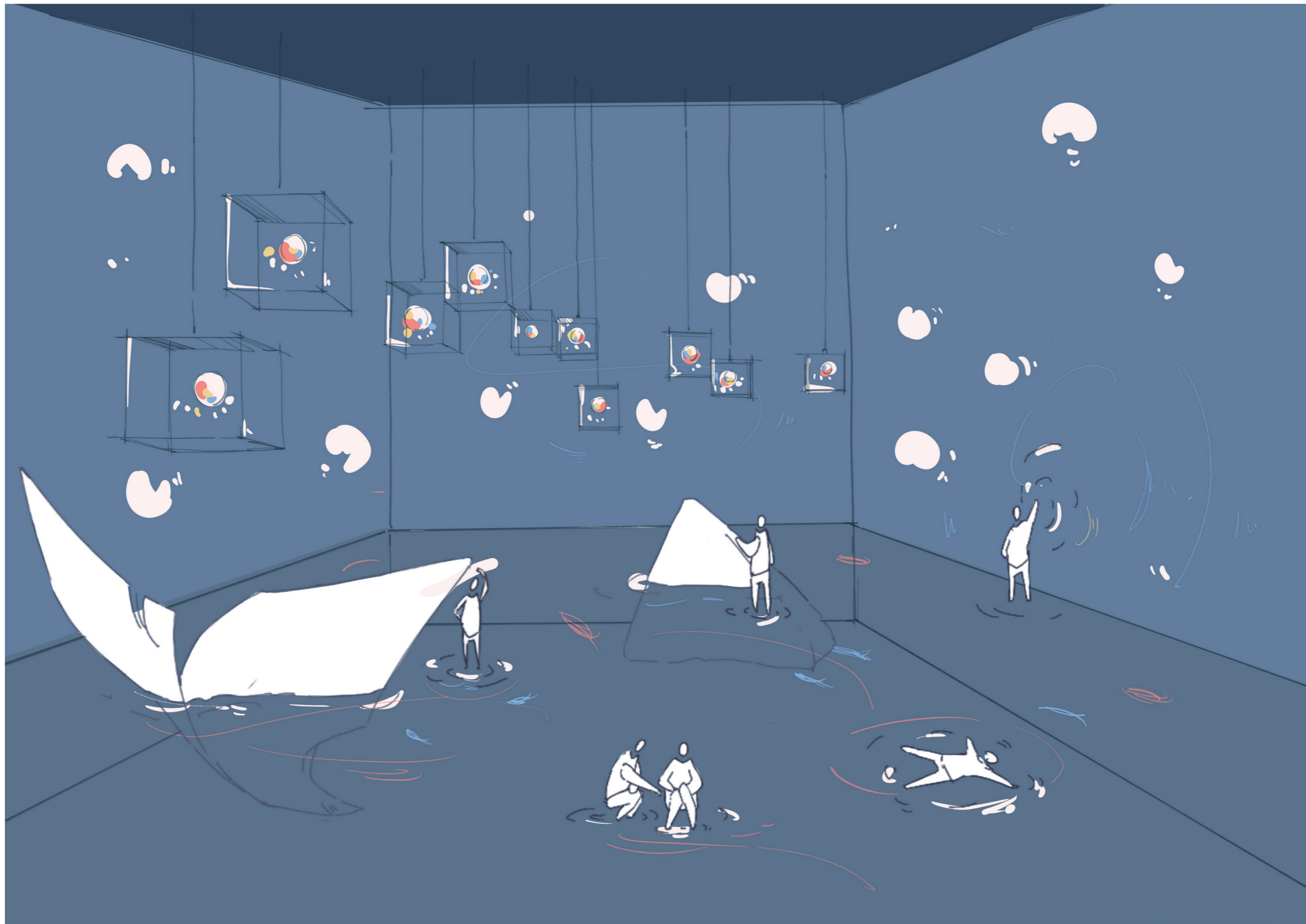
展示 2 — 排水
濁流の中で出口を探す



展示3 — 乱獲
漁網から脱出

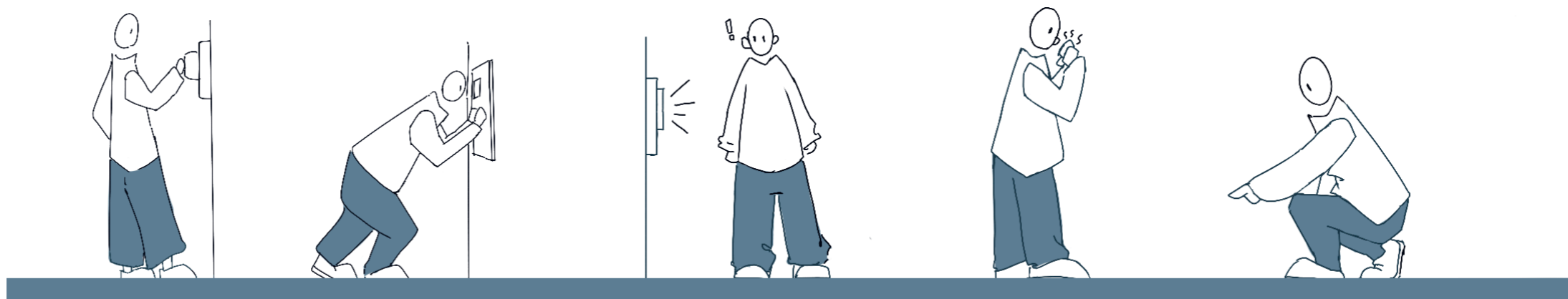


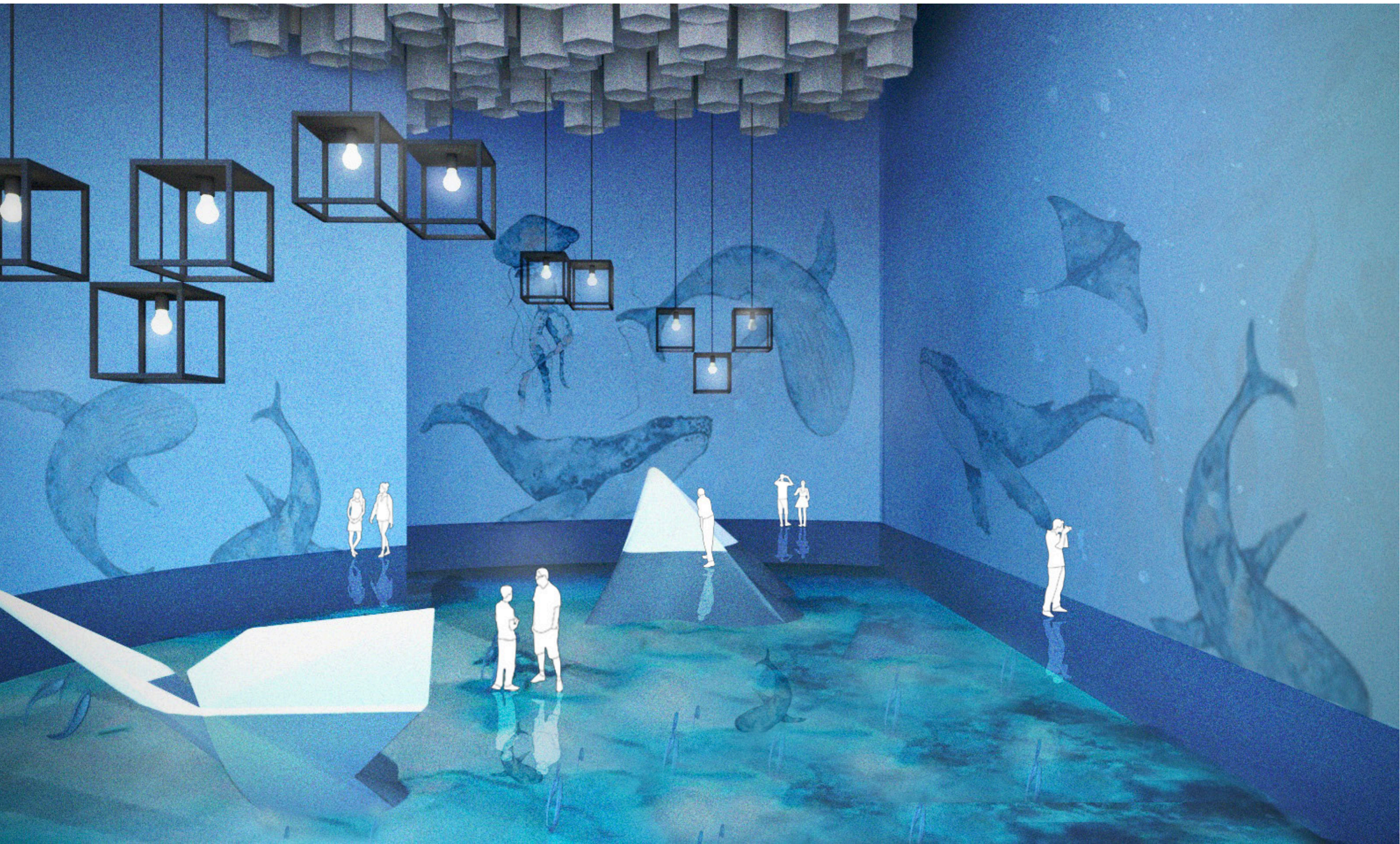
展示4 — 体験、思考
海洋生物の「生」と「死」を思考される





人物行動





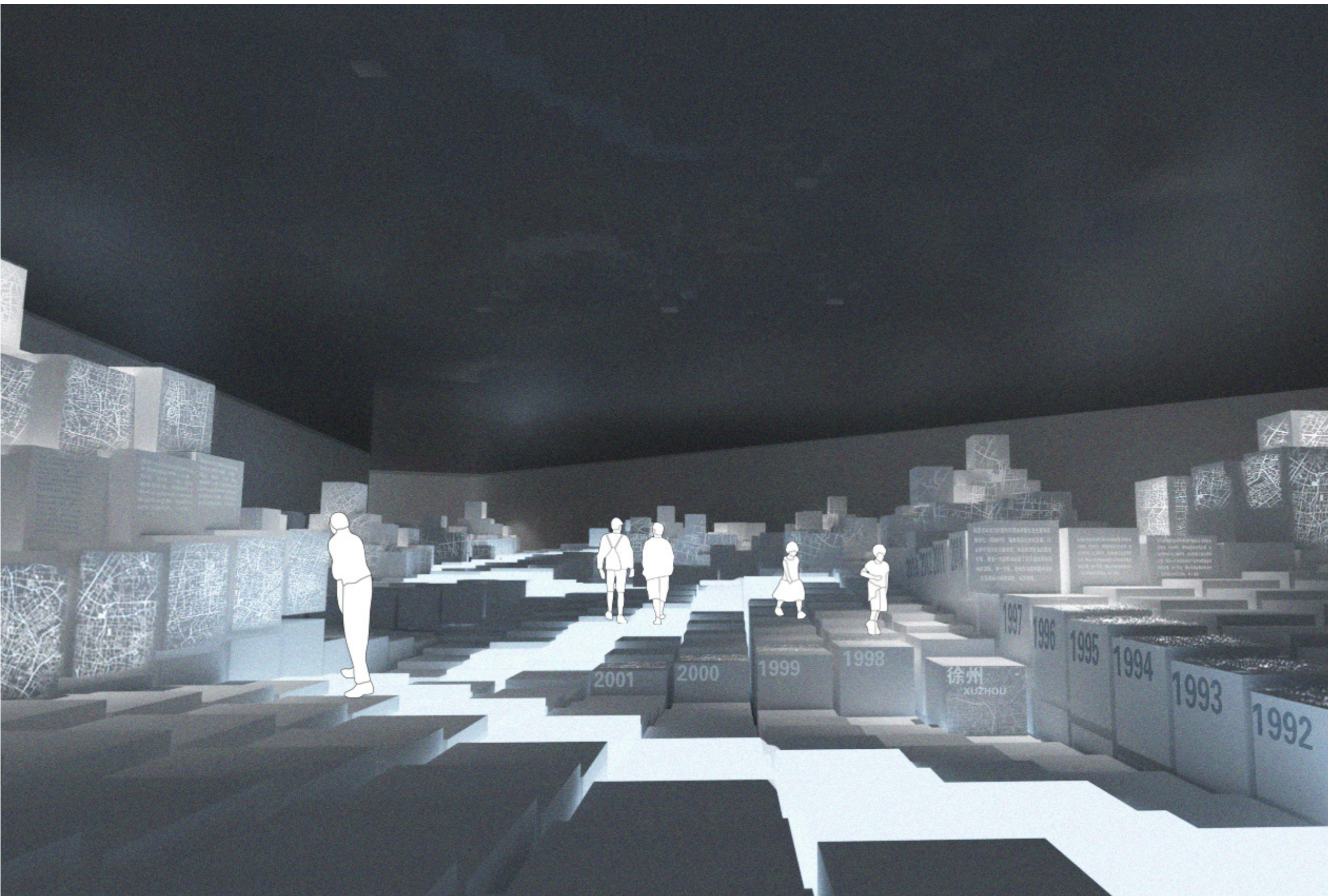
因運而生

制作時間：2021年6月

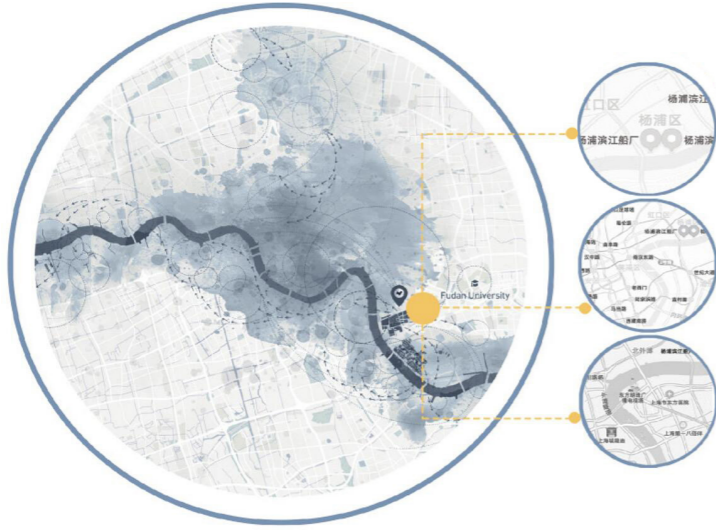
位置関係：中国上海

タイプ：ドック改造&ディスプレイ

時間が経ち、風景が変わっても、足元の油で汚れた錆びた地面と同じように、川岸には必ずいくつかの痕跡が刻まれている。一つずつ保存されているこれらの工業マークは、ここに来る人々に、上海の造船業の栄光を築いたこの造船所があること、何世代もの労働者がいることを思い出させる。

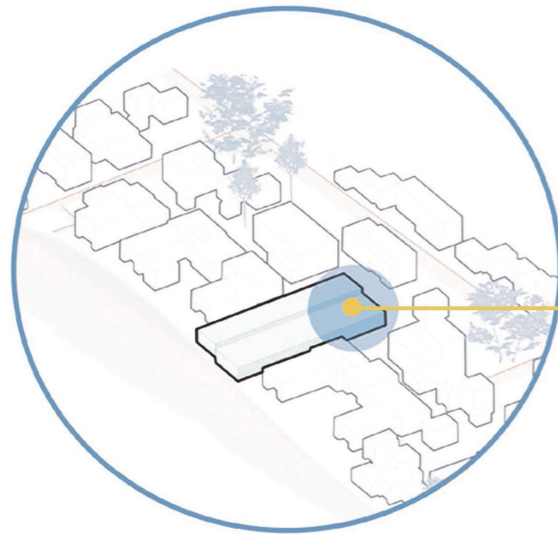


この作品は、北京杭州大運河の歴史の変遷に基づき、北京杭州大運河は、長い歴史を持つ人工の川であり、その存在は、経済、文化、生活、旅のスタイルに至るまで、沿線の都市に大きな発展をもたらし、その影響は何世代にもわたって続いている。



このプロジェクトの敷地は、上海最大の工業地帯である楊浦濱江第二造船所で、上海の近代産業の縮図であると同時に、過去100年にわたる近代史の変遷を記録した場所でもあります。

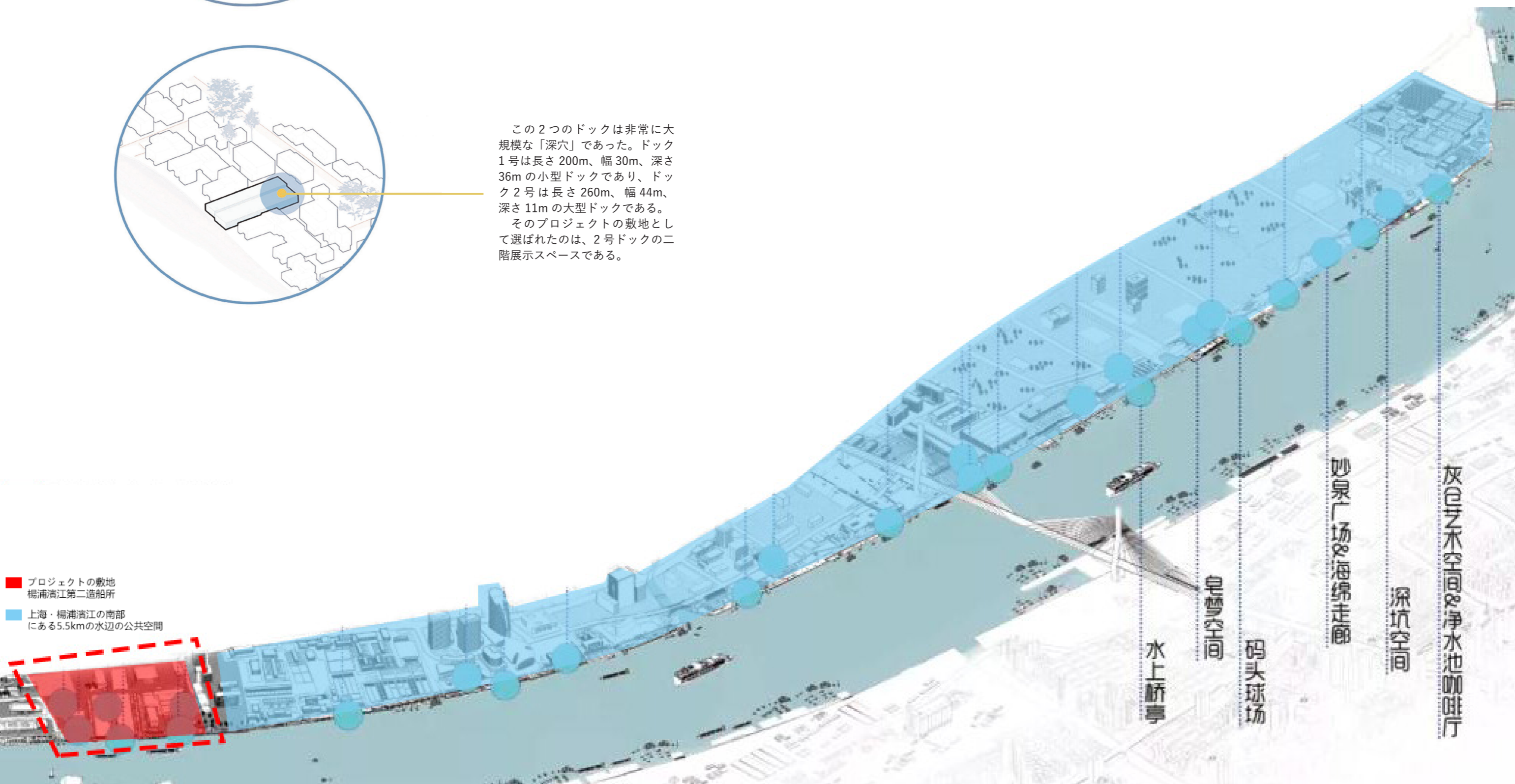
川沿いの造船所や工場は、近代造船業の記憶の担い手であり、本来の産業的有用性を奪われた後も、街の文化の中で最もユニークな場所として残っています。



この2つのドックは非常に大規模な「深穴」であった。ドック1号は長さ200m、幅30m、深さ36mの小型ドックであり、ドック2号は長さ260m、幅44m、深さ11mの大型ドックである。

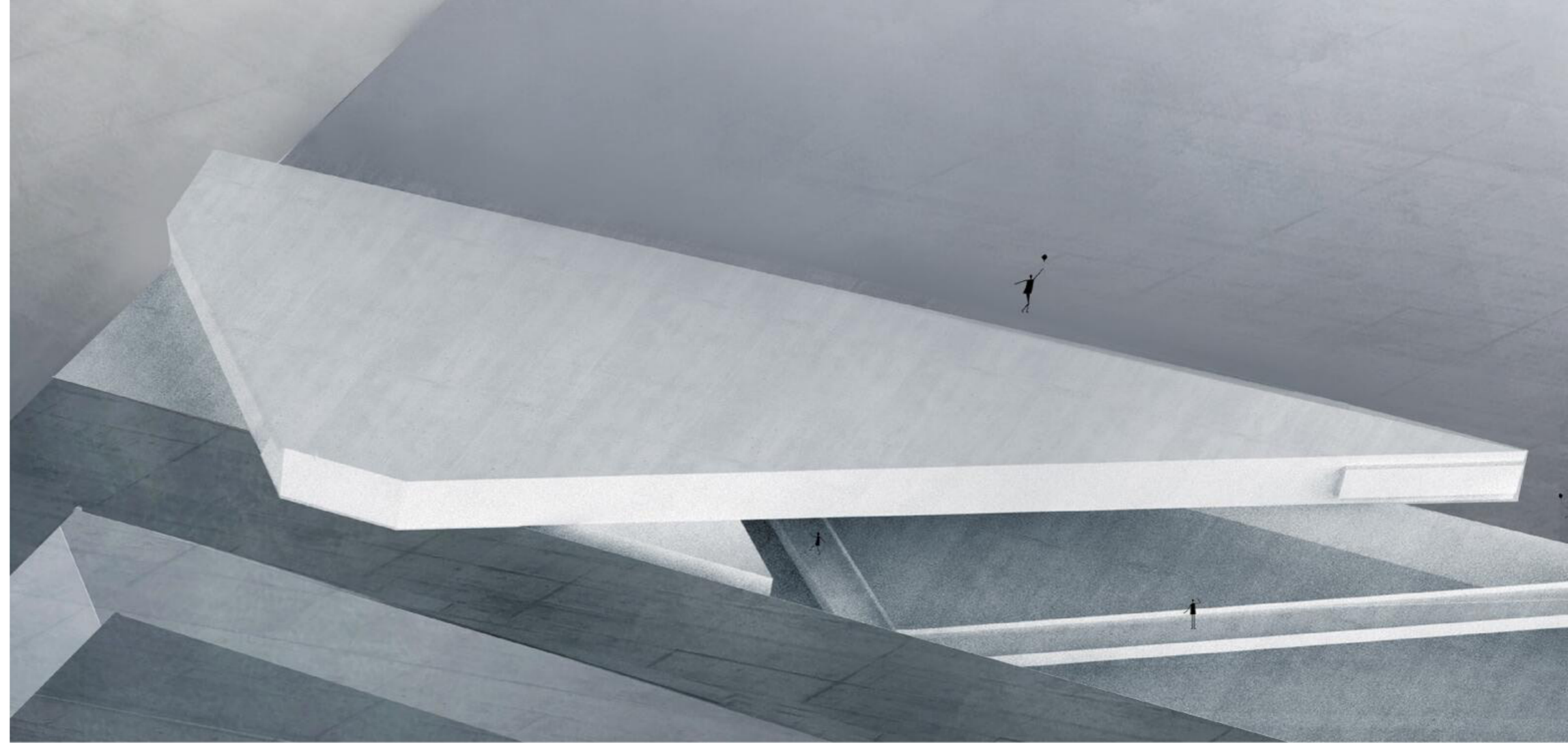
そのプロジェクトの敷地として選ばれたのは、2号ドックの二階展示スペースである。

- プロジェクトの敷地
楊浦濱江第二造船所
- 上海・楊浦濱江の南部
にある5.5kmの水辺の公共空間



廃棄されたドックの再生

このプロジェクトの敷地は、上海最大の工業地帯である楊浦濱江第二造船所です。このドックに2階建ての展示ホールを建設し、そこから展示内容やプレゼンテーションの構想を練っていくことを考えました。

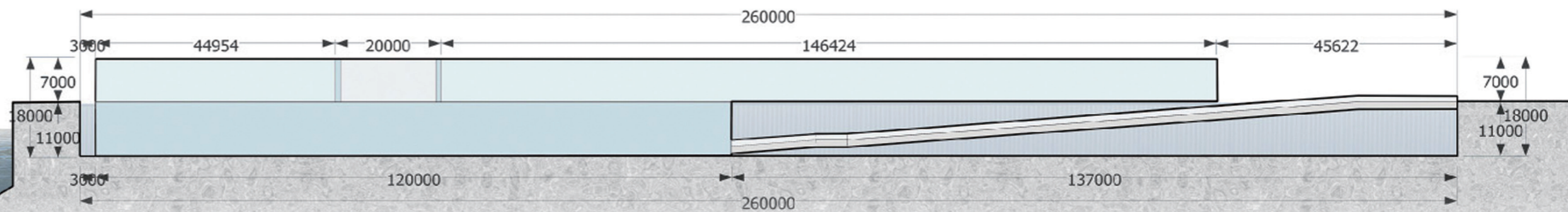


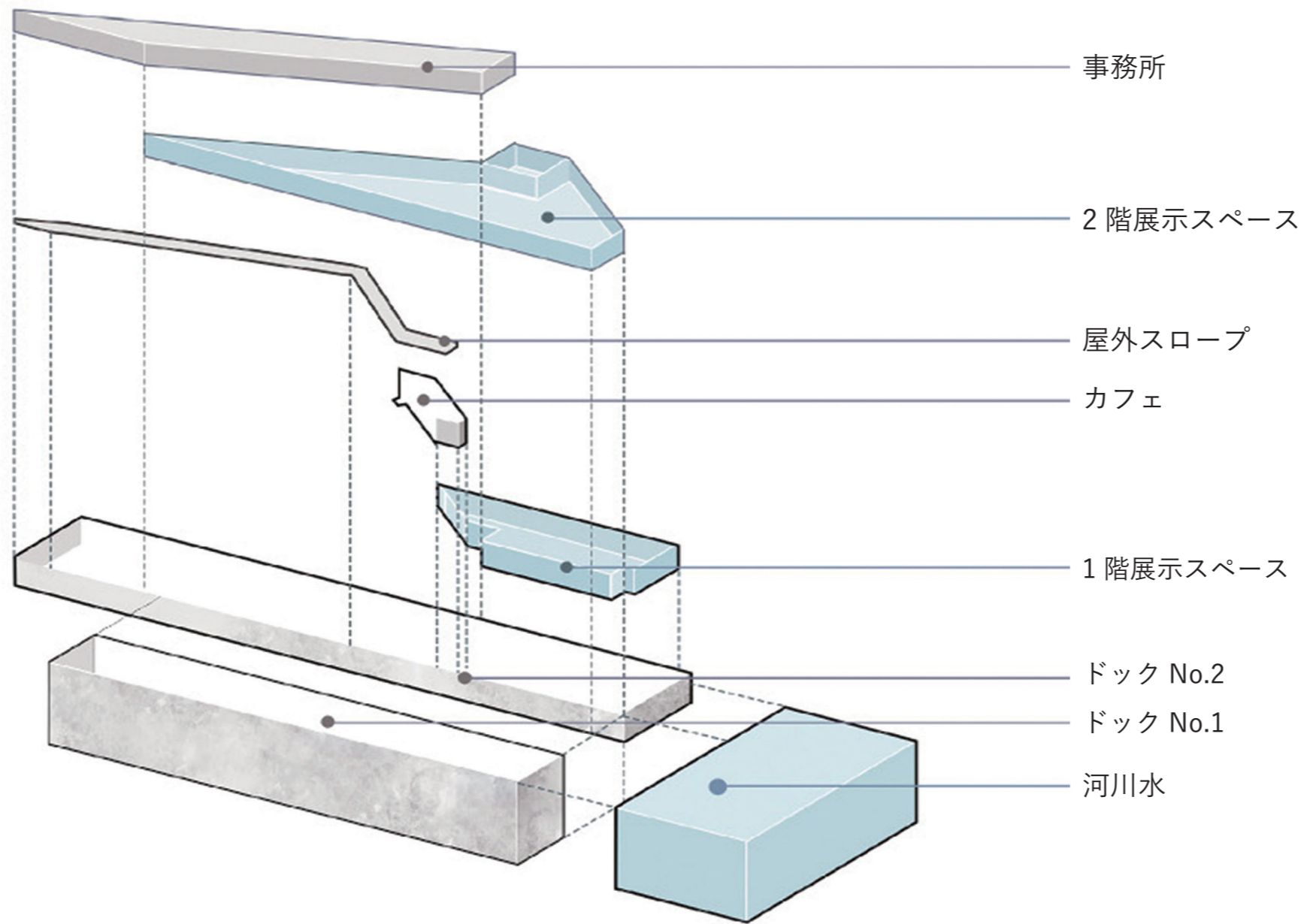
施設本来の姿



にぎやかな街の中にある廃墟の造船所

施設断面図





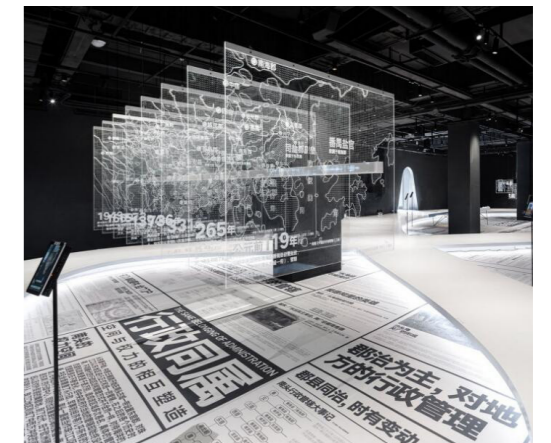
1階展示スペース—— 数往知来

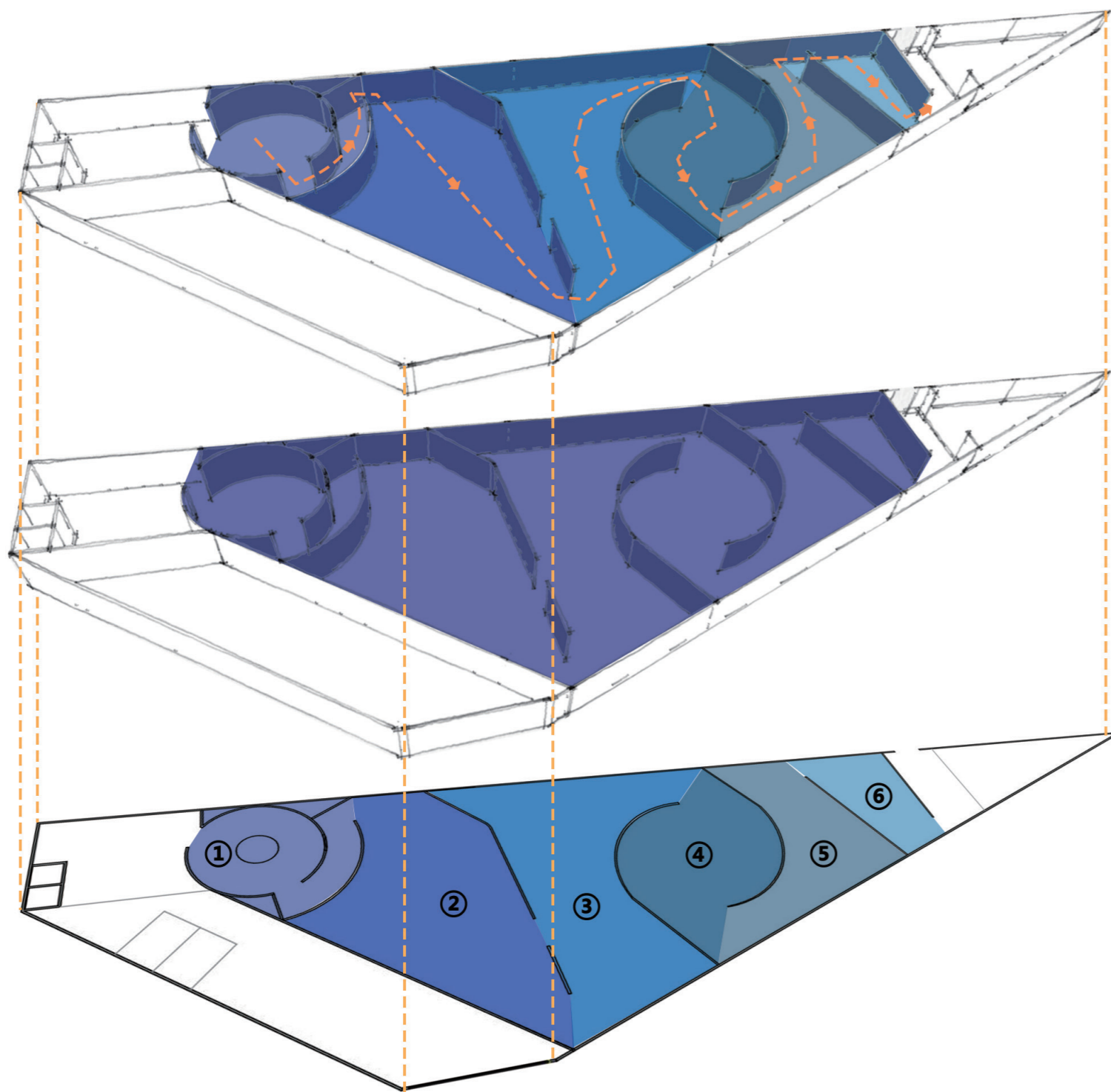
この展示スペースでは、主に北京杭州大運河に関連するデータを中心に、多くのデータを展示することで、北京杭州大運河の歴史を視覚化することができる。



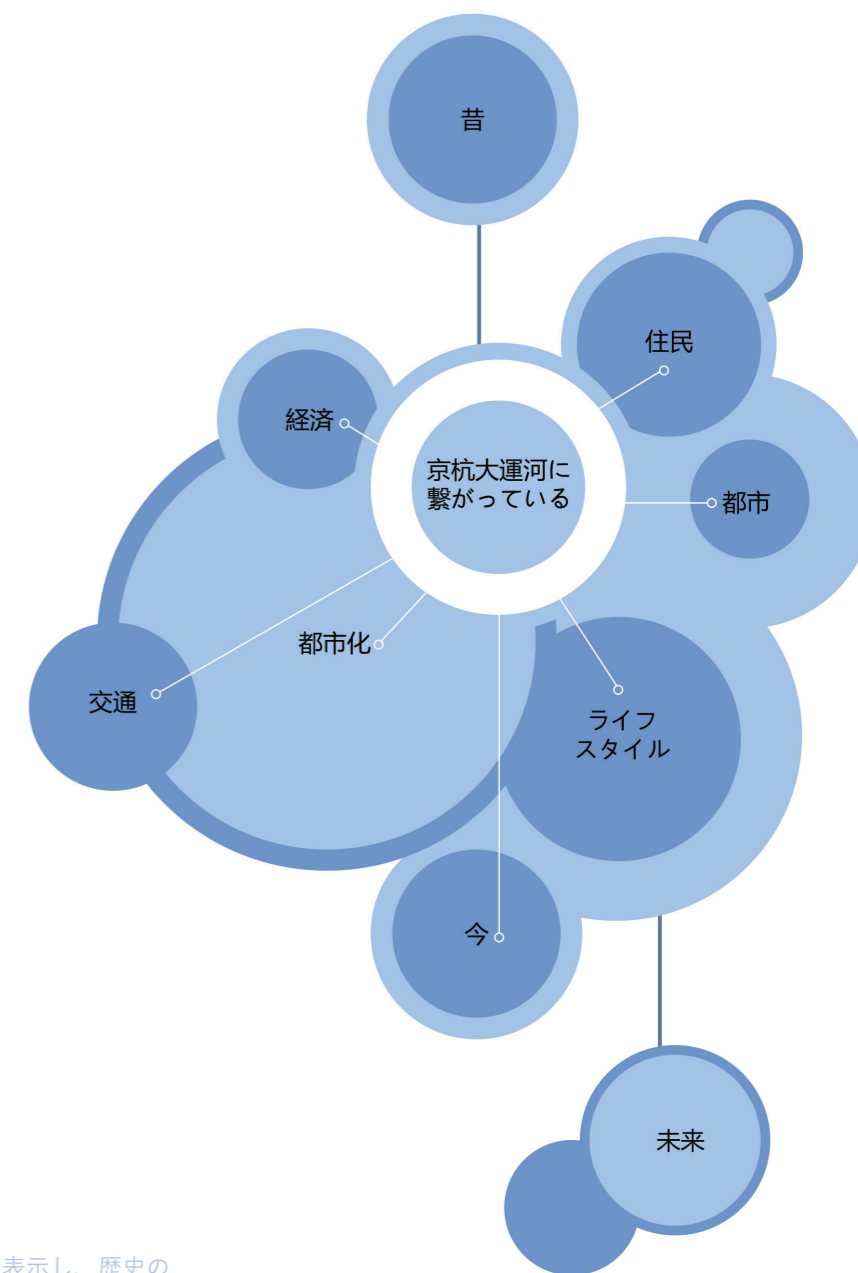
2階展示スペース—— 因運而生

この展示スペースでは、北京杭州大運河に関連する地図を中心に、古代から現代までの地図を展示し、北京杭州大運河が周辺地域にもたらした変化を視覚的に表現しています。





- ①展示1 ――始まり
展示全体を案内するガイドツアー。
- ②展示2 ――千秋運河
北京・杭州大運河の航路の変化を地図上に表示し、歴史の変化を視覚化する。
- ③展示3 ――順流而居
運河周辺の家屋の高さを展示する。
- ④展示4 ――興于淵源
運河沿いの都市の都心部の偏差を展示する。
- ⑤展示5 ――行至千里
運河沿いの都市の交通手段の変化を展示する。
- ⑥展示6 ――拓之无際
運河沿いの都市の面積の変化を展示する。

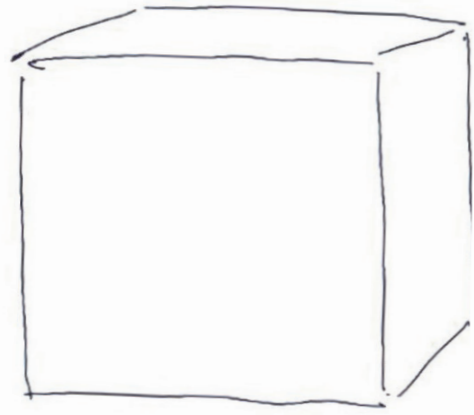




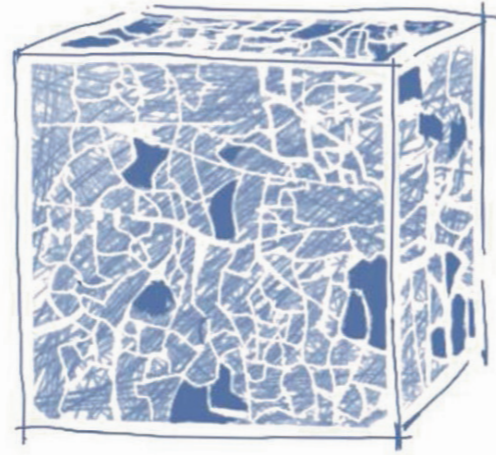
キューブに貼り付けられた地図

空間全体がキューブで占められており、運河が街にもたらした変化を地図で示すことで、その変化を反映させることが大きなテーマとなっています。地図を表示手段として四角に貼り付けるのは、コントラストをはっきりさせて見やすくするためと、見る人を空間の体験に引き込むため、そして没入感を高めるためです。

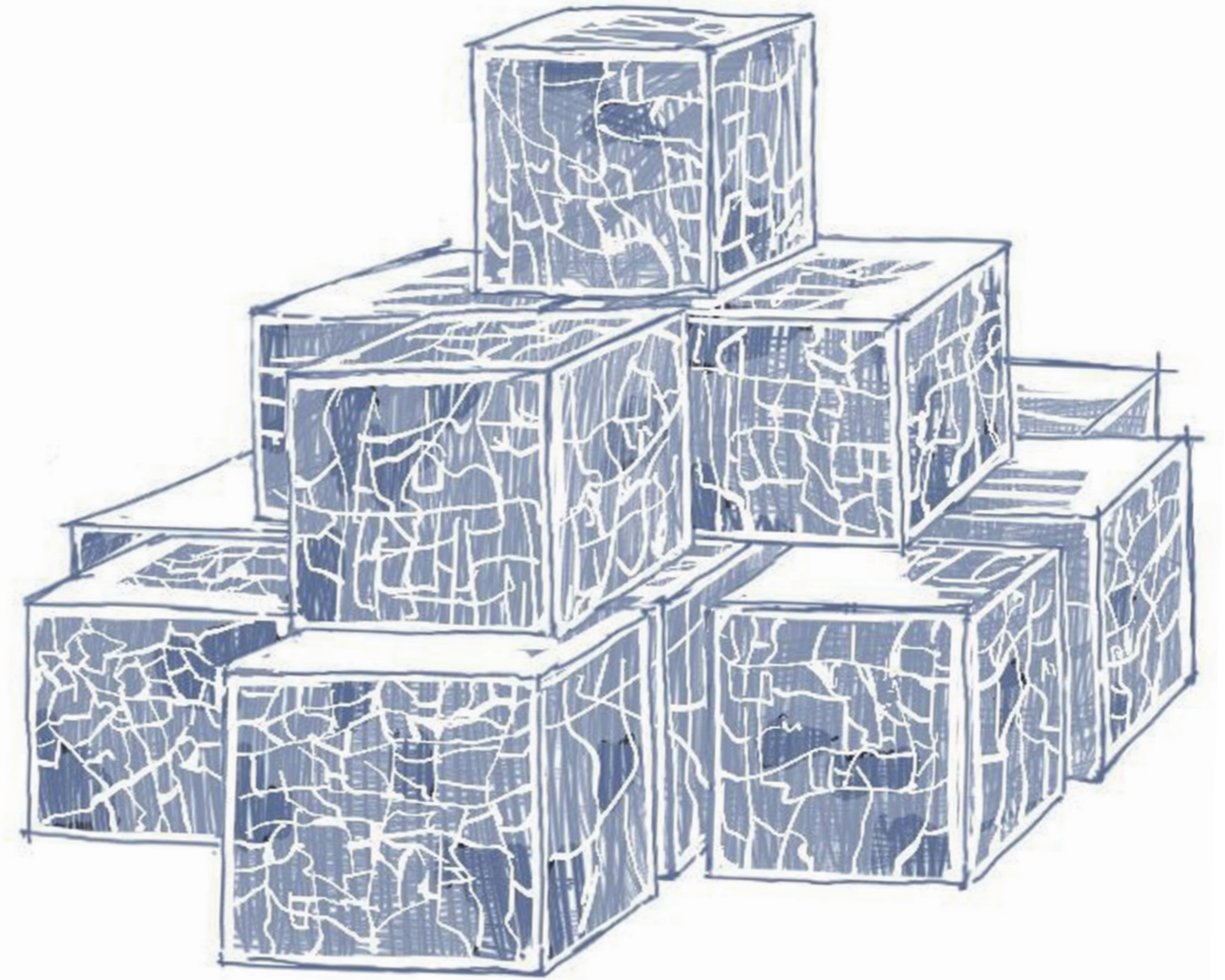
積み上げられたキューブ



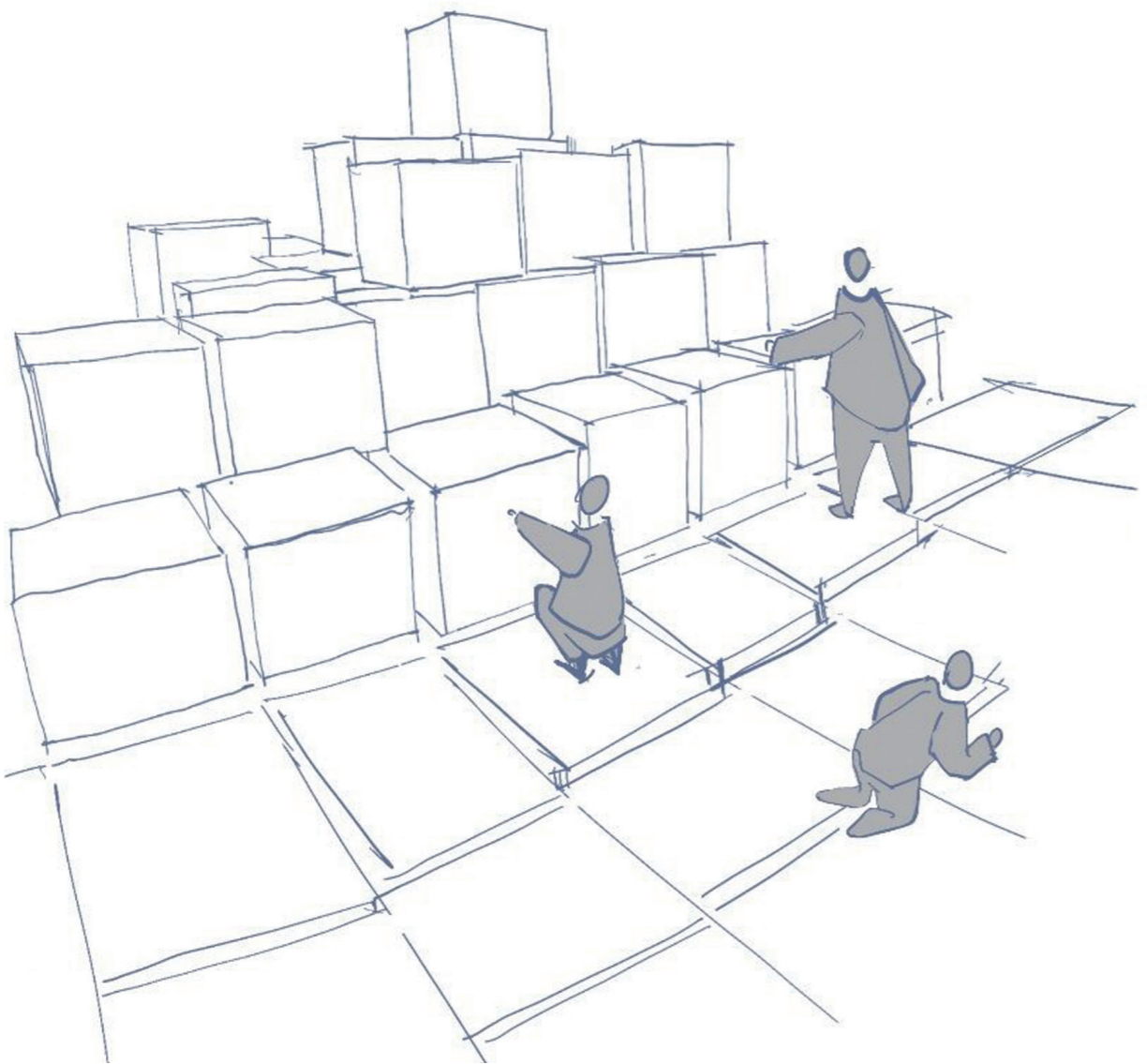
CUBE



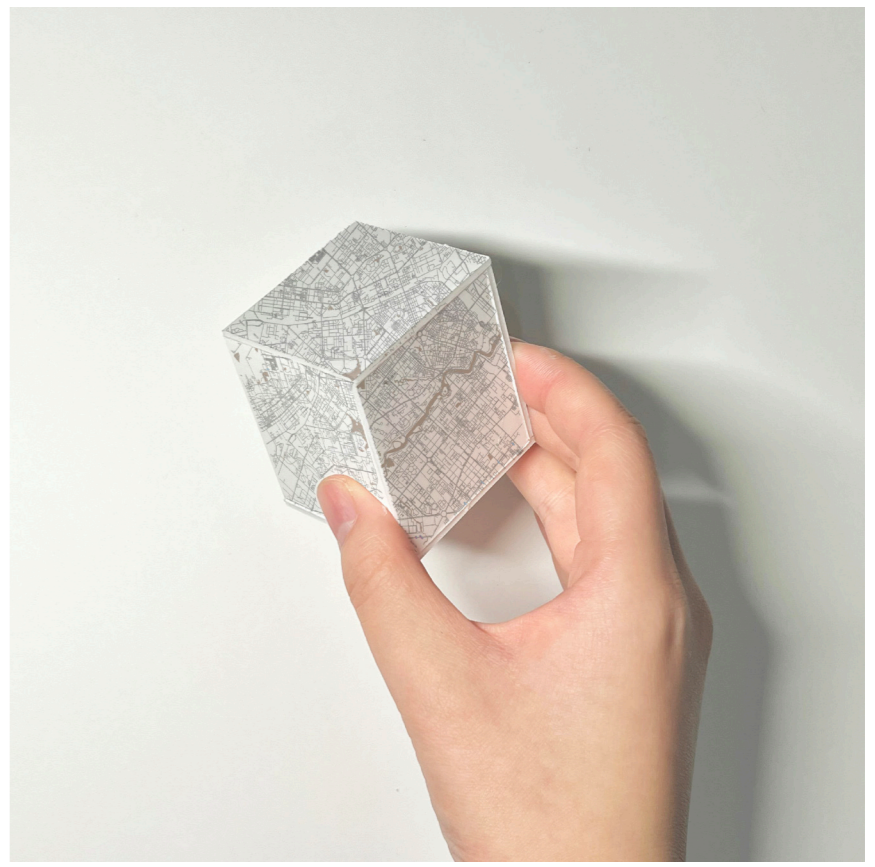
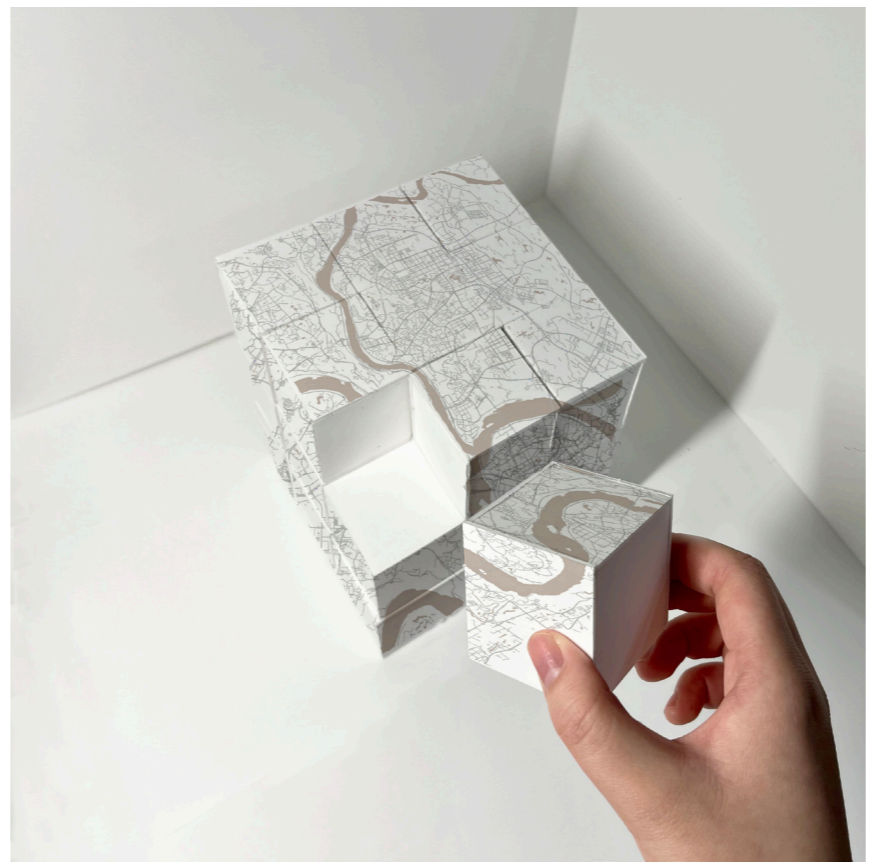
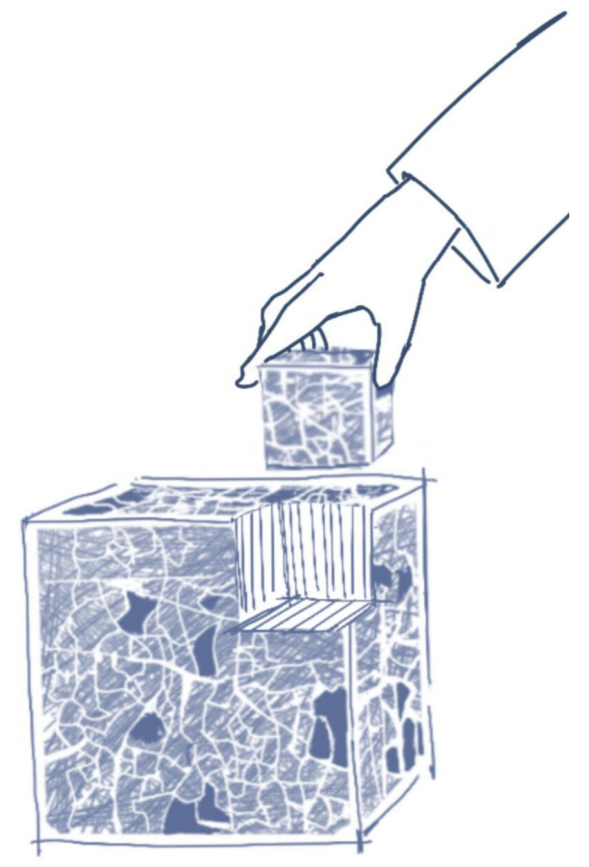
地図

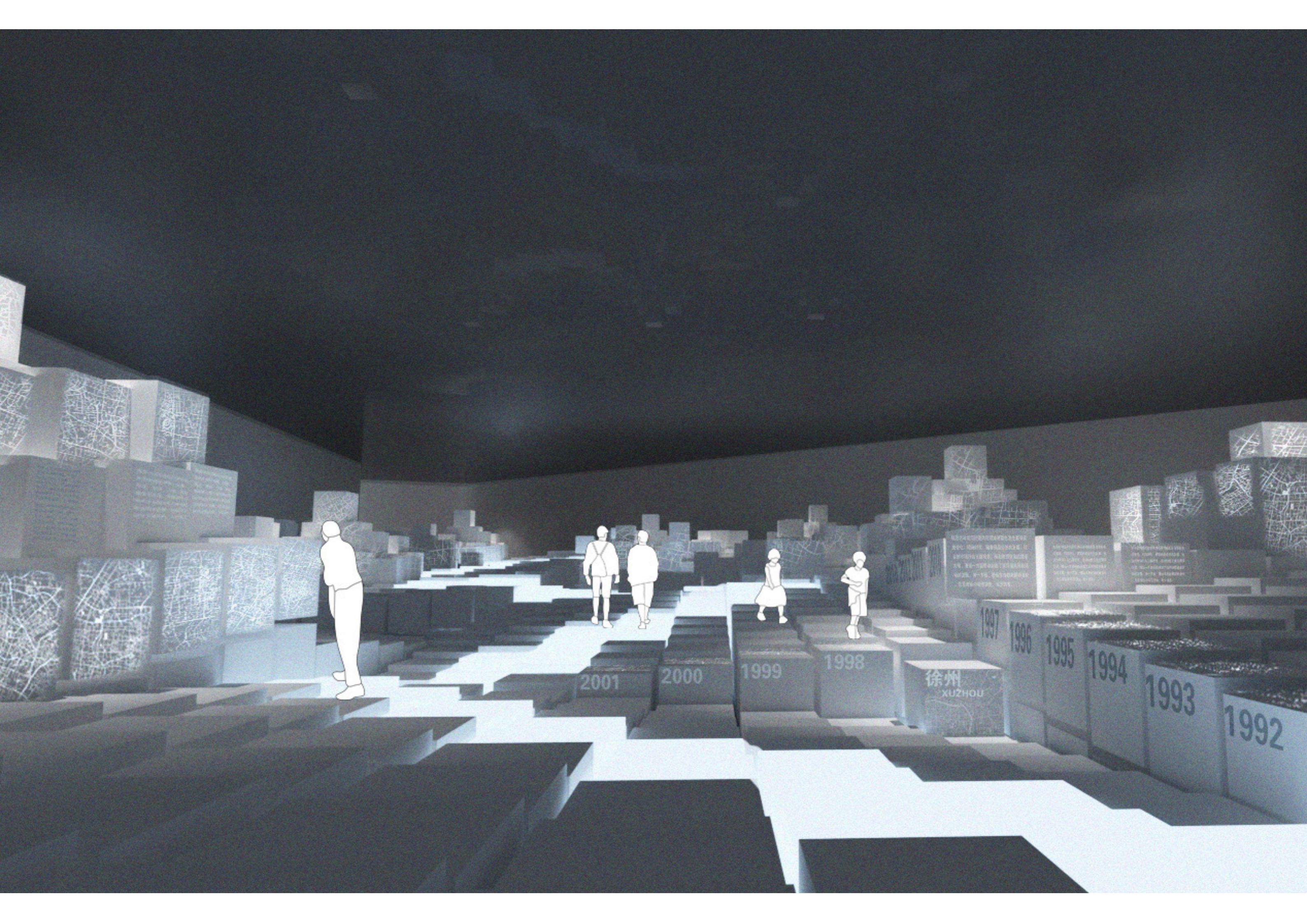


積み上げられたキューブは一つの都市を表している



任务. →
探索!





2001

2000

1999

1998

徐州
XUZHOU

1997

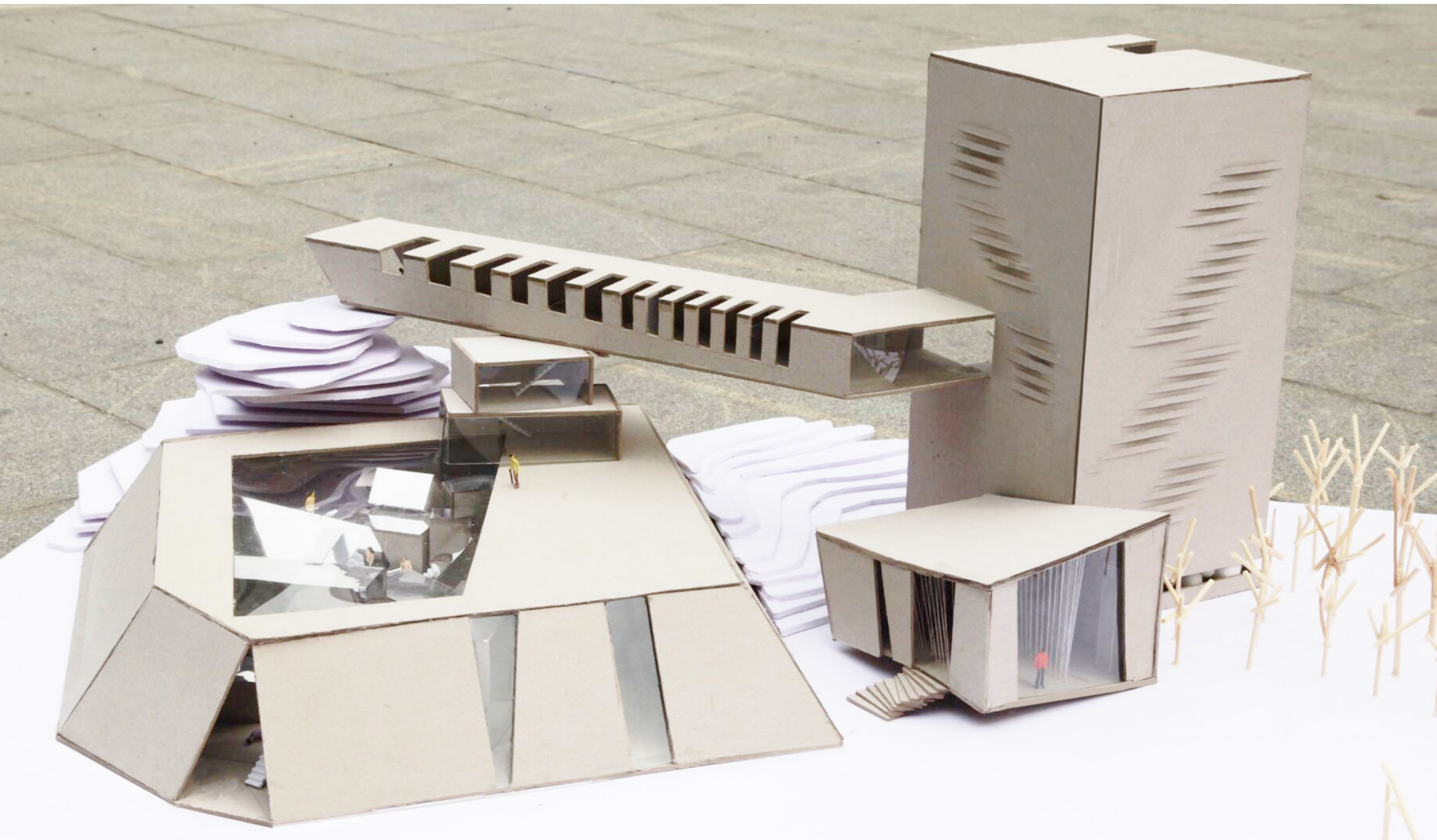
1996

1995

1994

1993

1992



感情の旅

制作時間：2020年1月
位置関係：中国南京
タイプ：空間構成

テーマ：「千と千尋の神隠し」
10歳の少女荻野千尋は油屋を舞台にさまざまな人物、困難、危機に直面し、それまで甘やかされていた彼女の精神に変化が起こり始める物語です。

本作品では、感情の空間化をテーマとし、映画「千と千尋の神隠し」のメインストーリーラインから4つの感情を抽出し、空間体験として具現化する。

抽出した感情

映画を見ることで、「千と千尋の神隠し」のターニングポイントをいくつか見つけることができ、このターニングポイントで主人公が見せた感情は、この課題で表現すべき感情です。



怖い



狼狽える



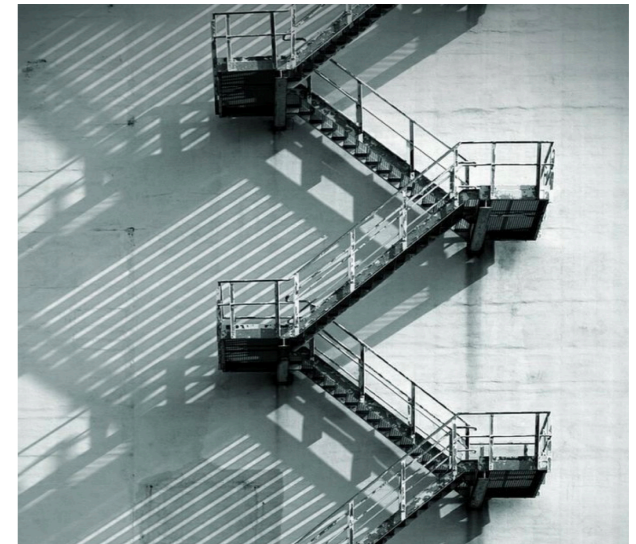
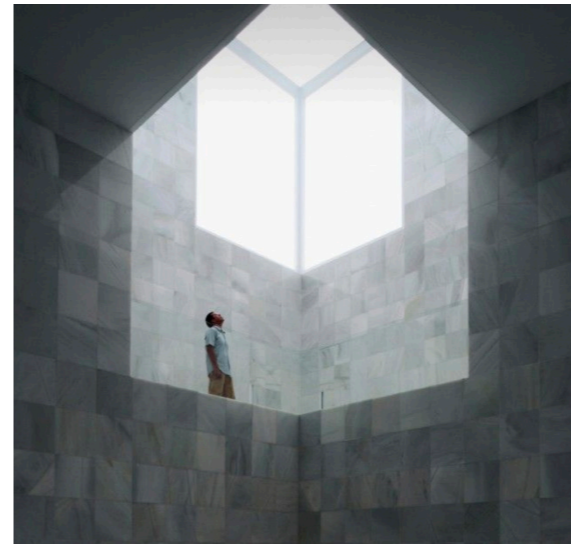
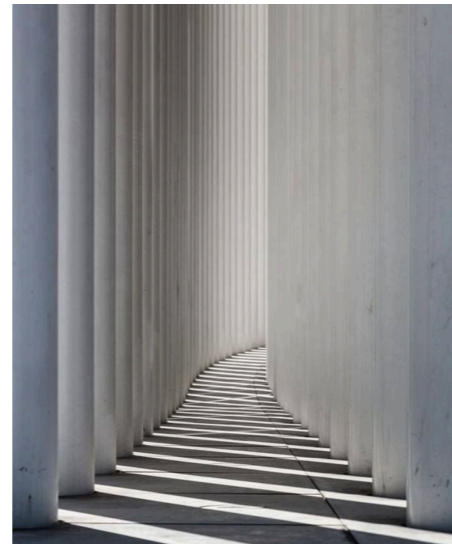
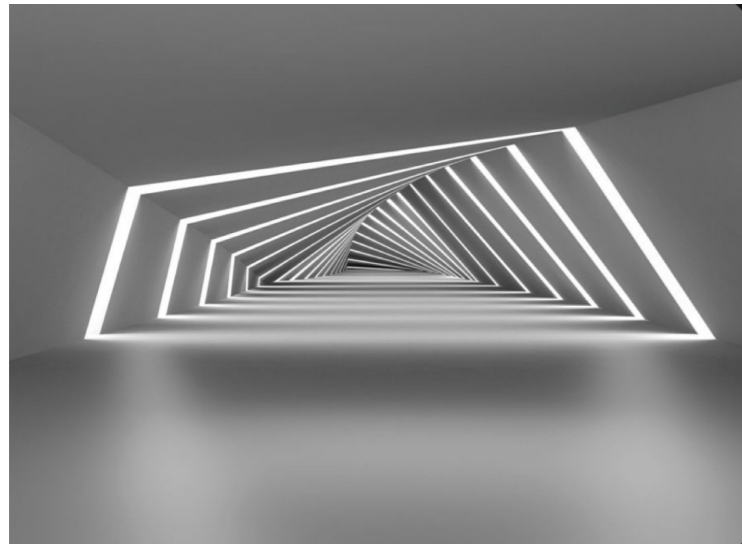
惑う



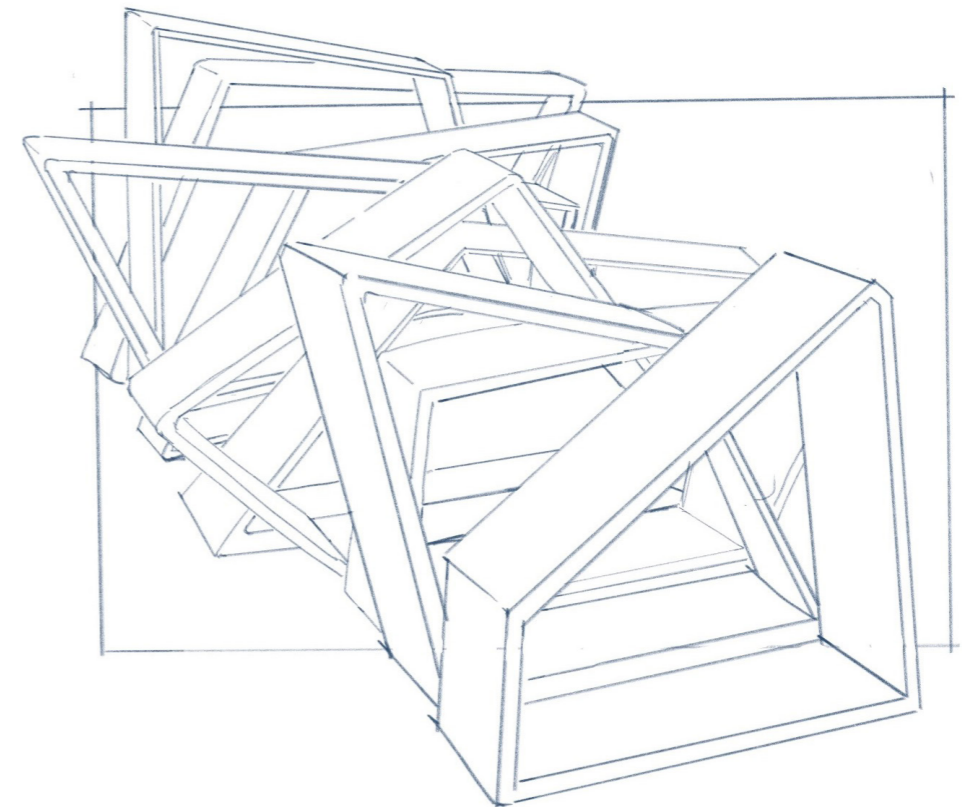
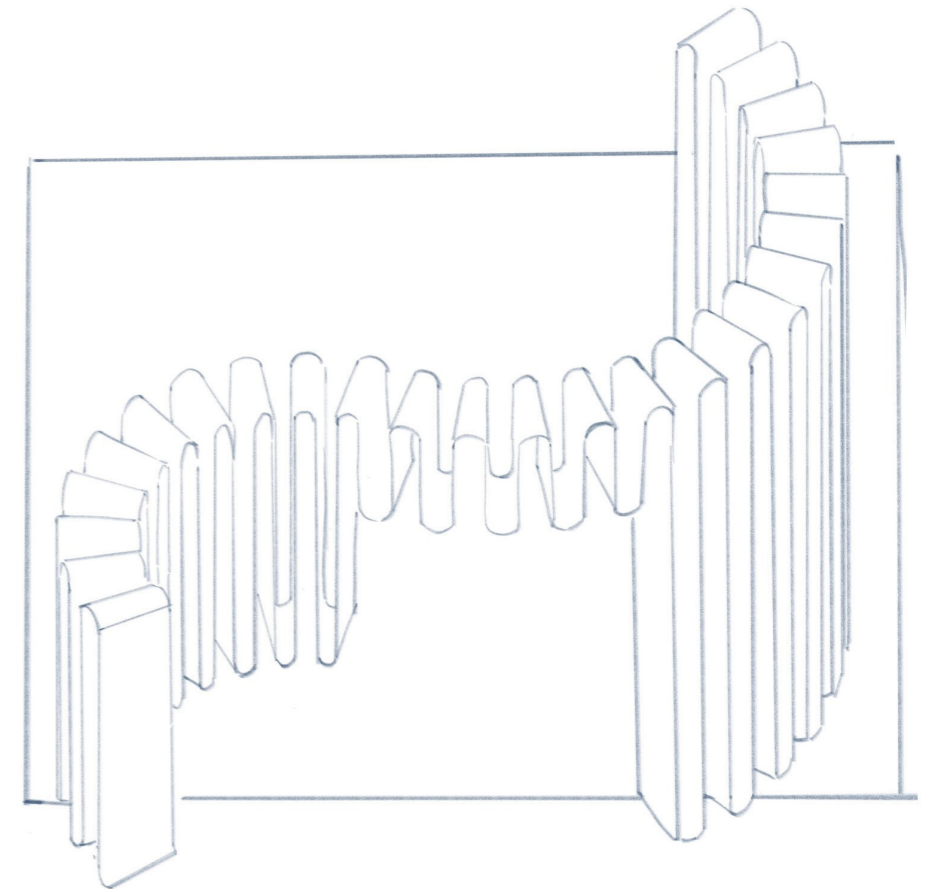
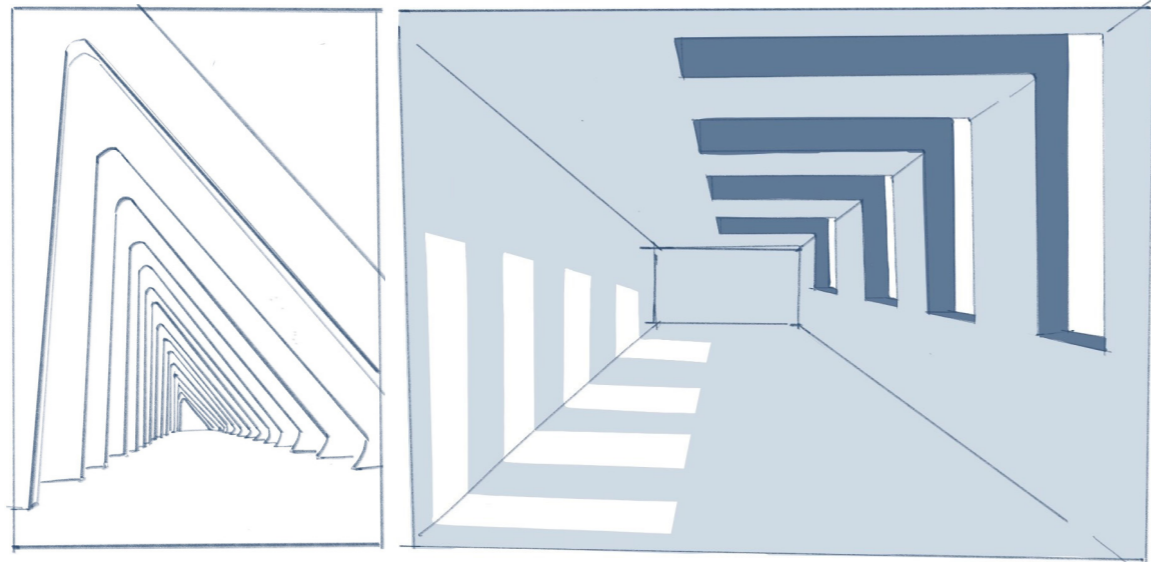
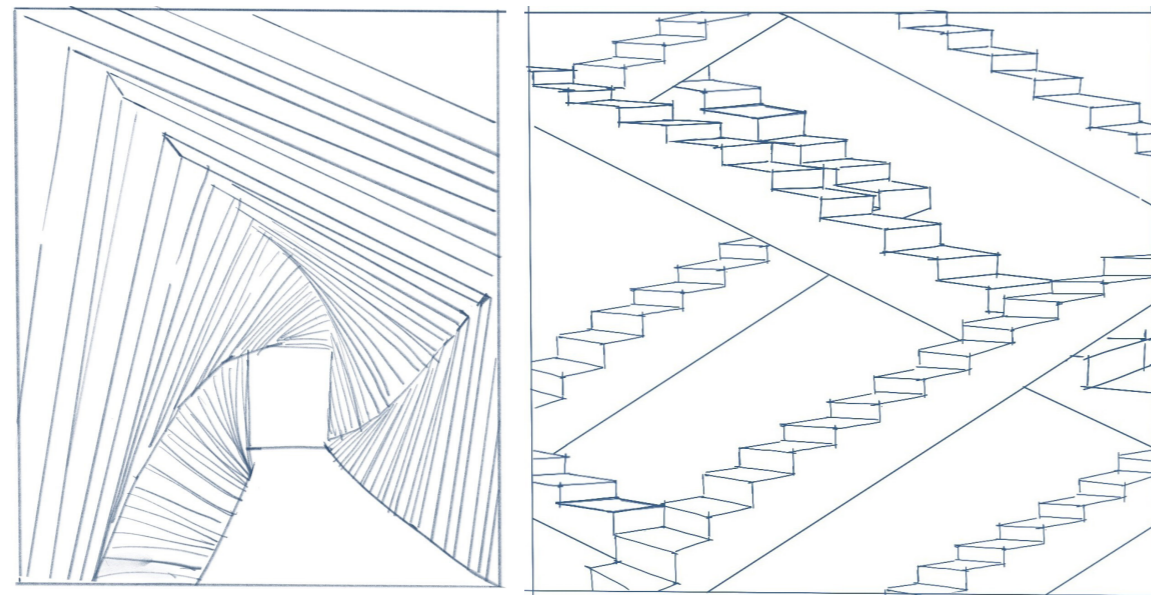
平静

インスピレーション

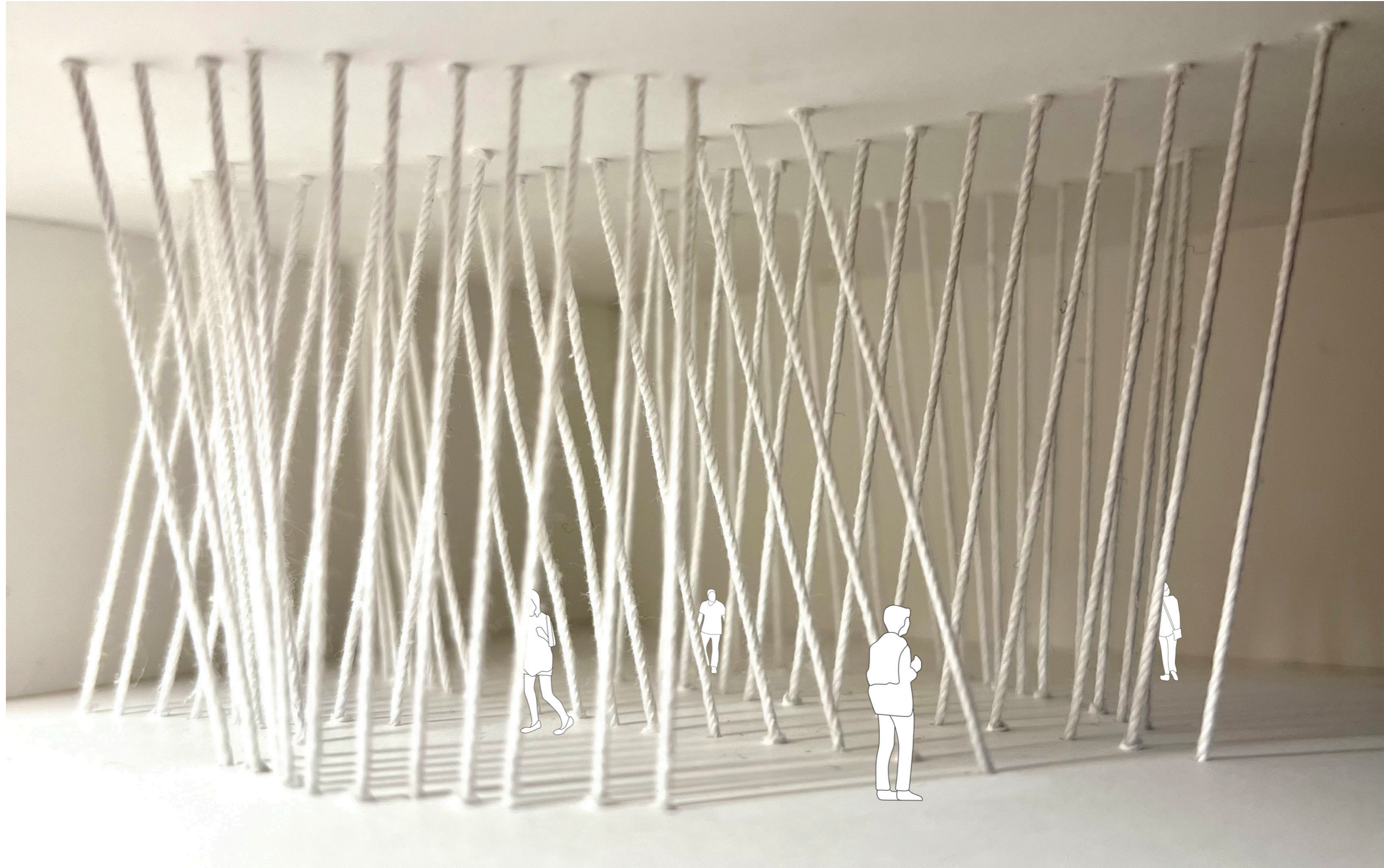
感情を具現化した空間の構成は、何らかの光と影を通して、その空間を見る人の感情に影響を与えることを期待しています。



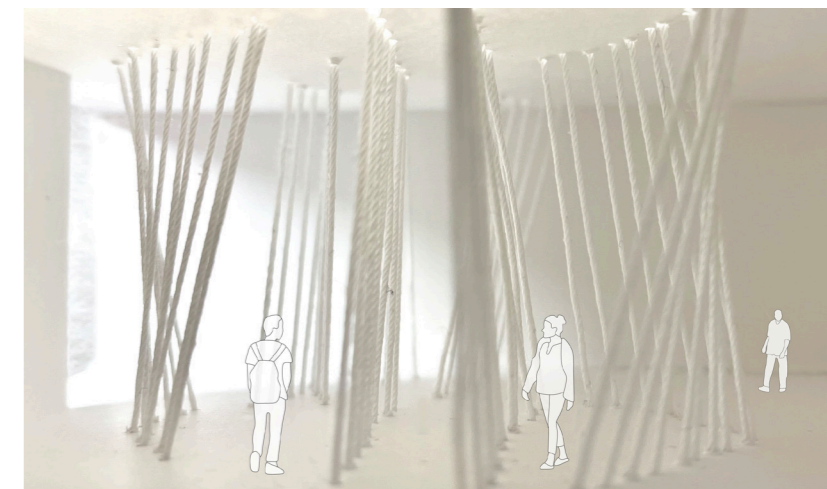
空間のスケッチ

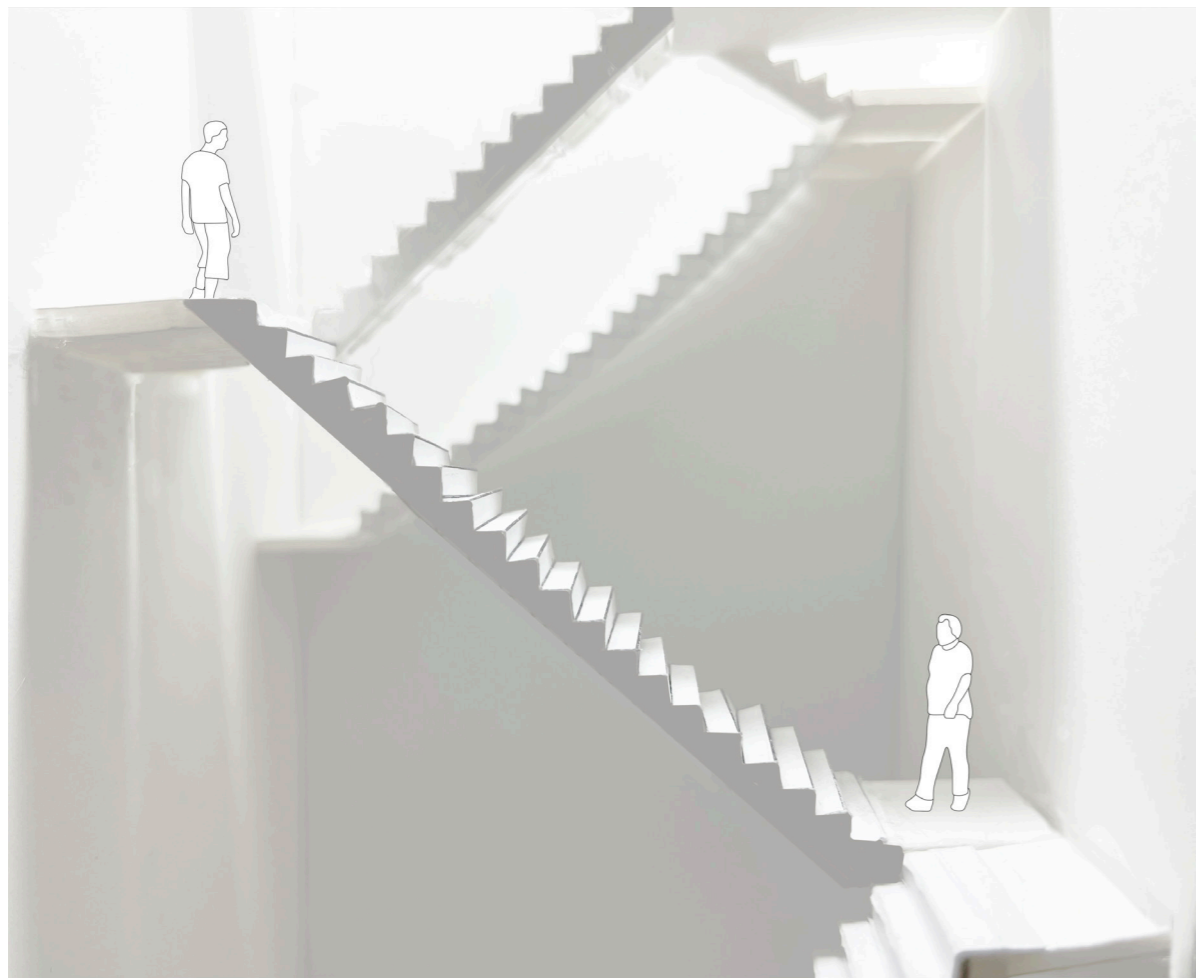


空間模型



狼狽える





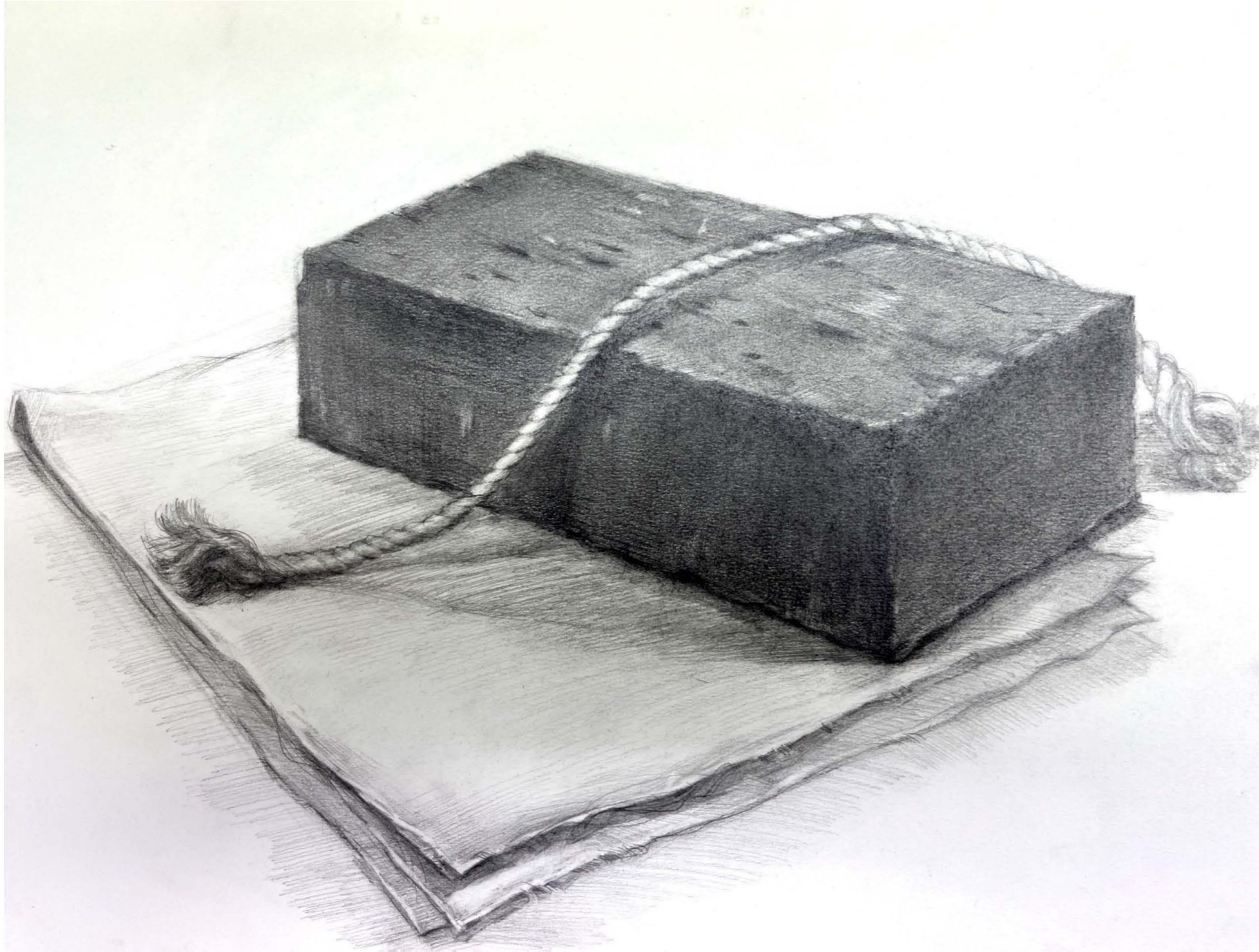
惑う

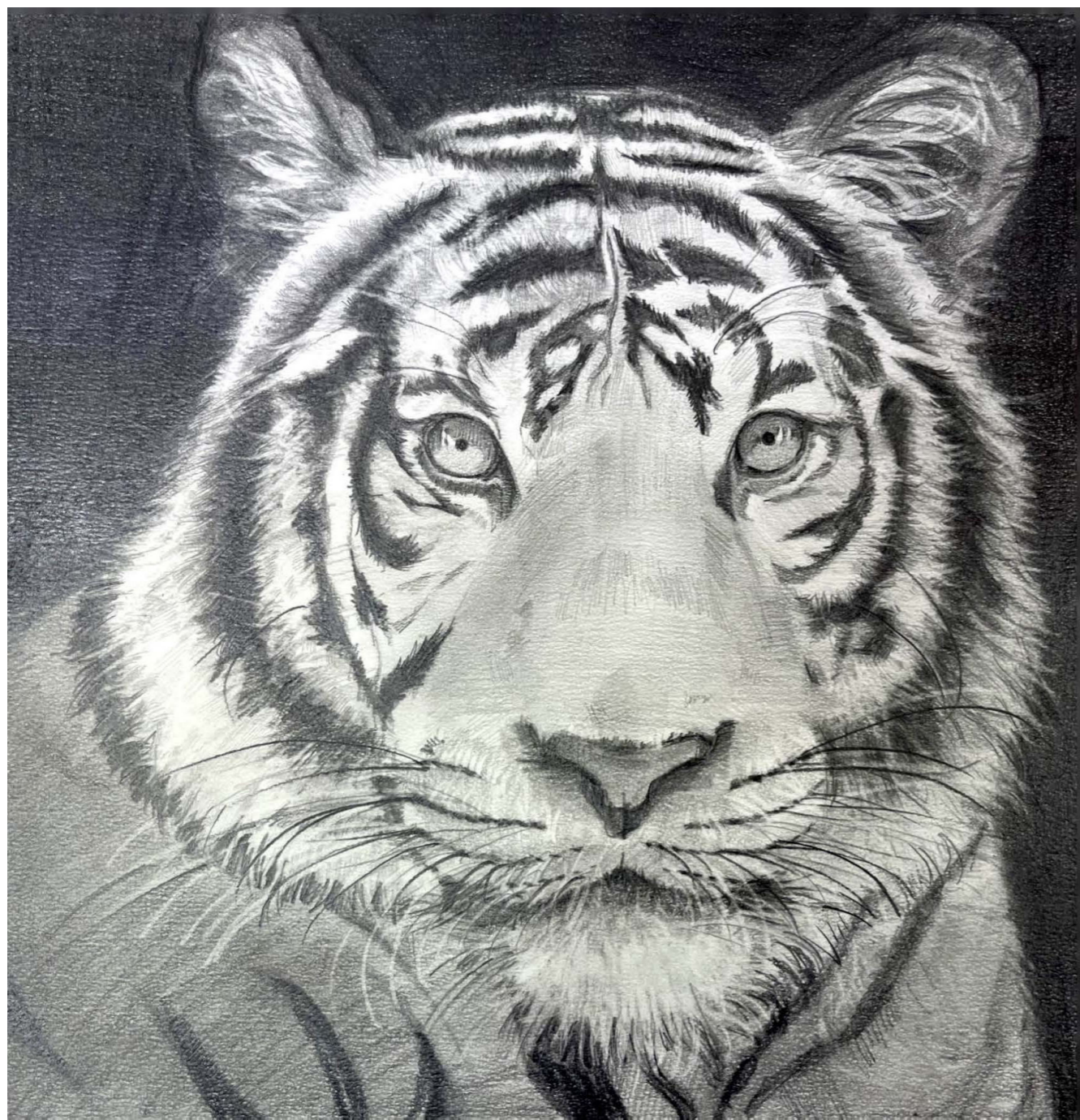


平静

専門学校時期作品

デッサン作品







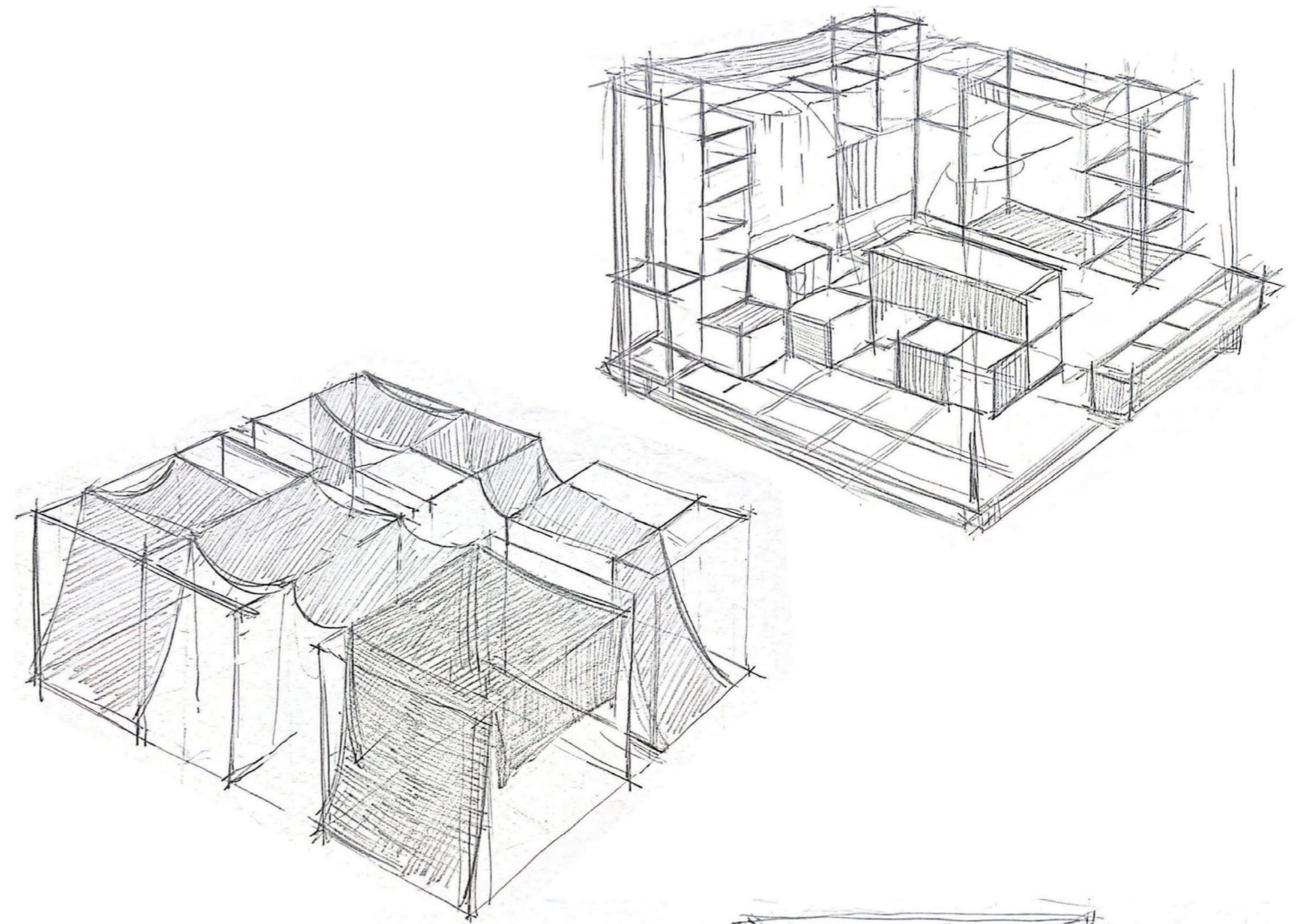
POP-UP STORE LAYERED CAFE

CONCEPT

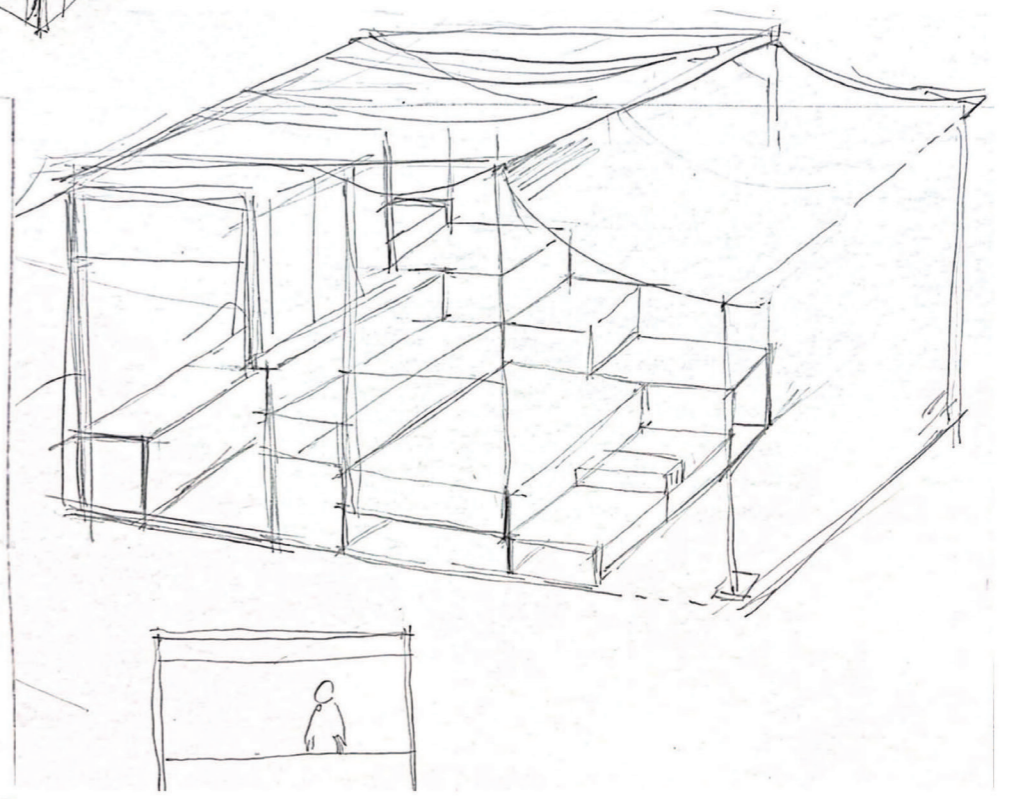
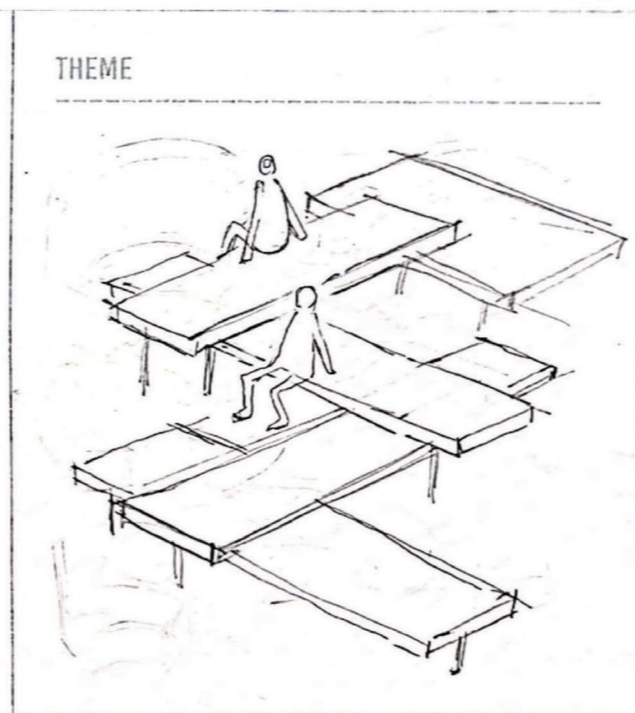
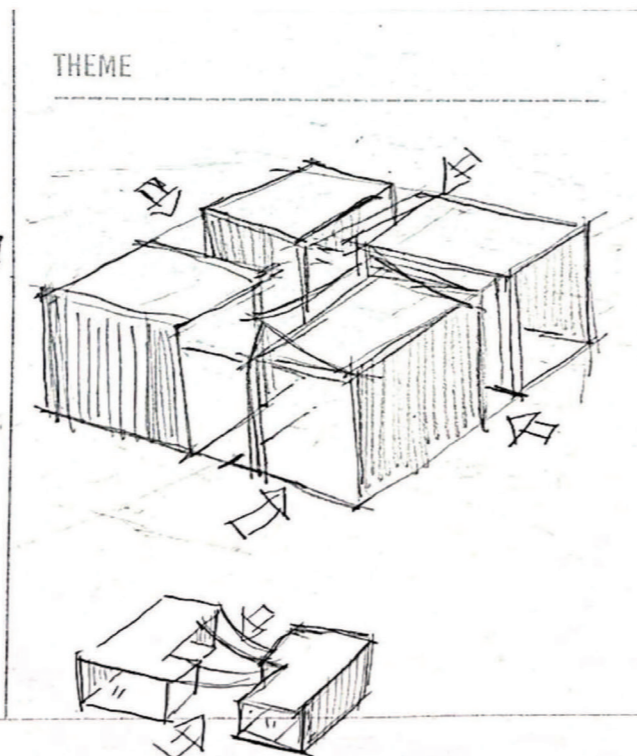
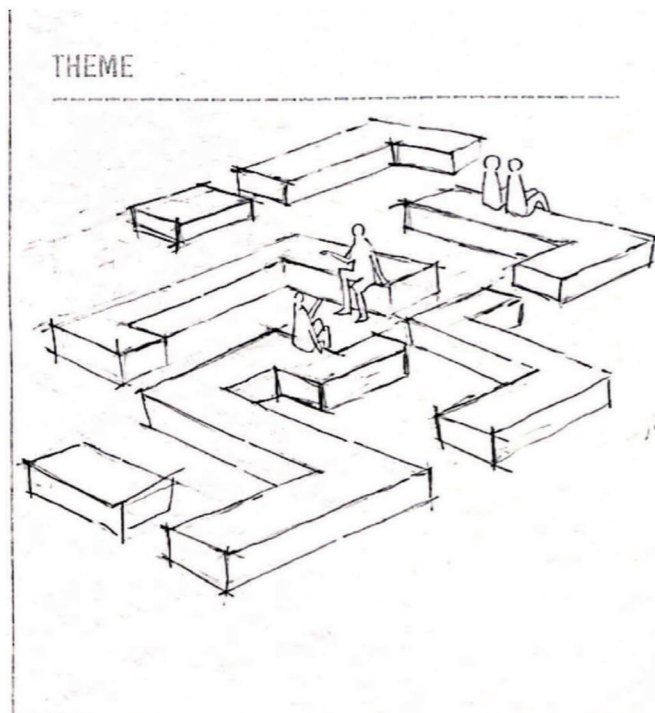
東京都区部のほぼ中心に位置することもあり、東京都心の繁華街の一つでもある御茶ノ水駅周辺には大学や専門学校、各種予備校・学習塾などが立ち並び、日本国内最大級の学生街として知られる。同時に明大通りの御茶ノ水駅近くを中心として国内最大規模の楽器店街でもある。この御茶ノ水駅は若者が集まる場所であることがわかる。

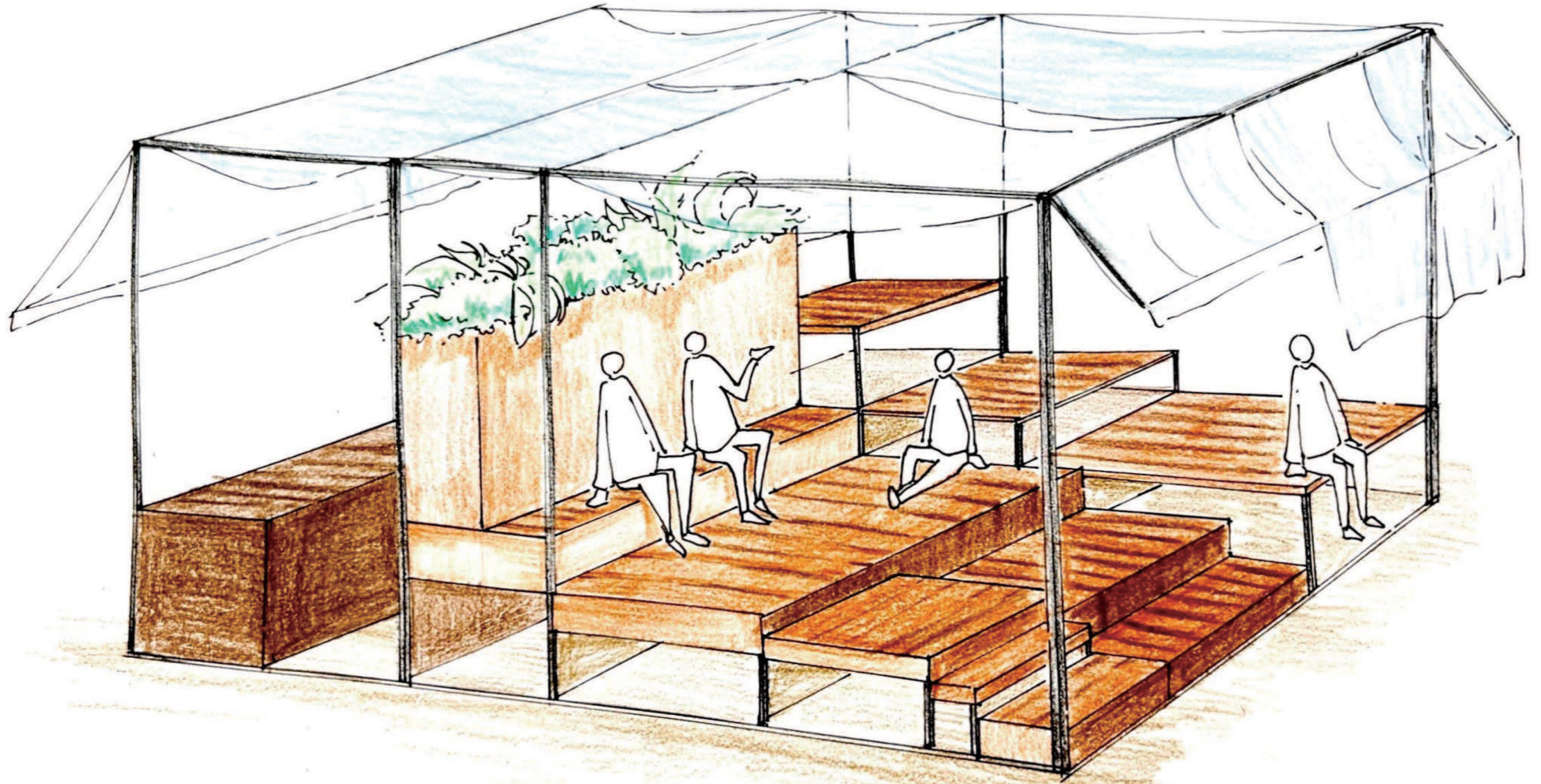
この作品のテーマは、地域の人々の交流を促進することであり、忙しい駅の近くで、人々がゆっくり過ごせる空間を作ることである。

空間の一方は客席、もう一方はカウンターになっている。空間全体的に黒い枠で囲まれて、木製の階段が客席になっている。固定席はないので、一人でも友達と一緒にでも楽しめる。空間の上部は光の透過性の良い布で覆われているため、空間全体に開放感があり、人々は布を吹く風の動きを空間で感じることができる。



IDEA SKETCH

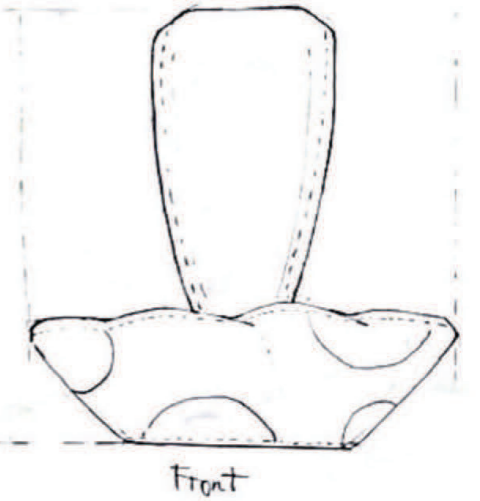
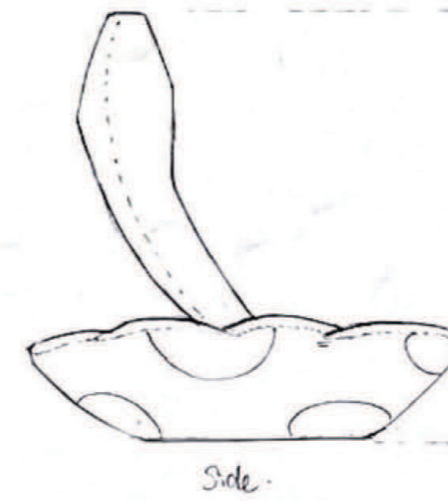
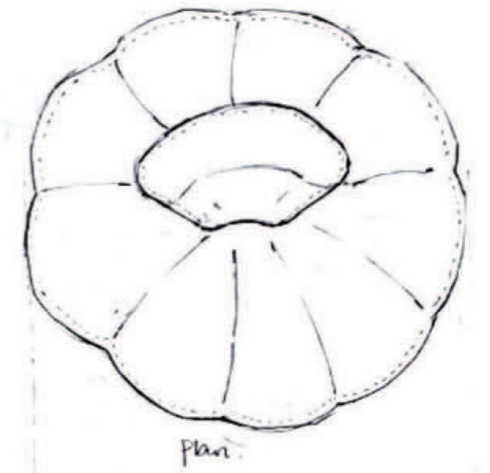
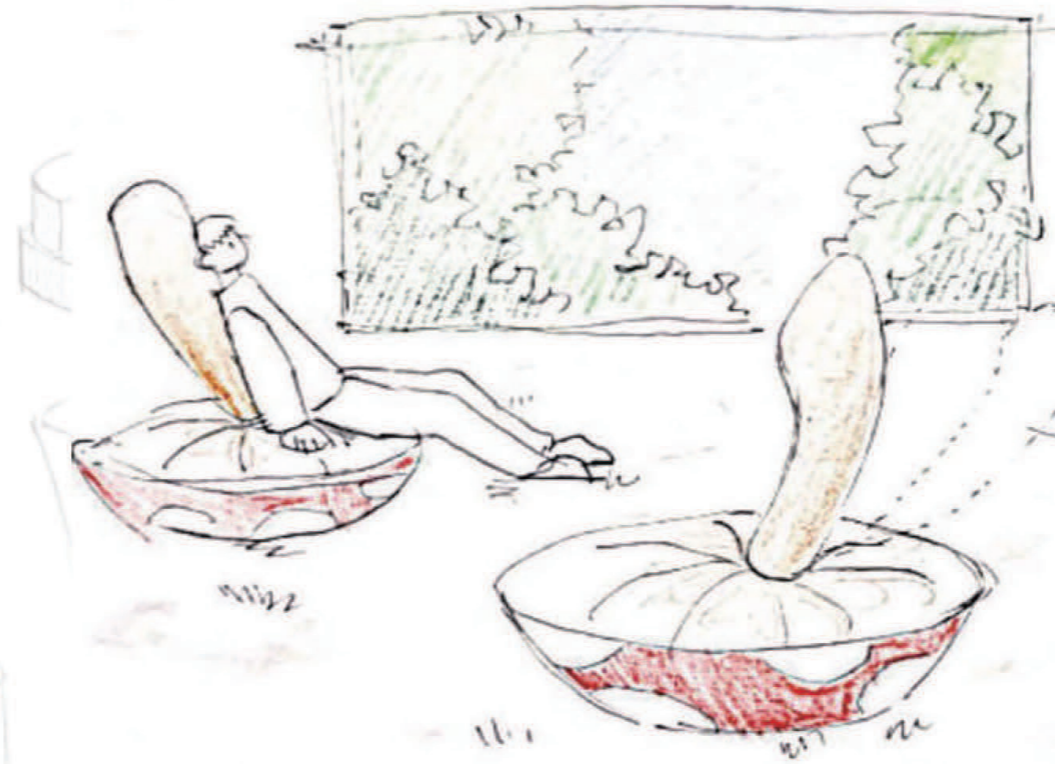




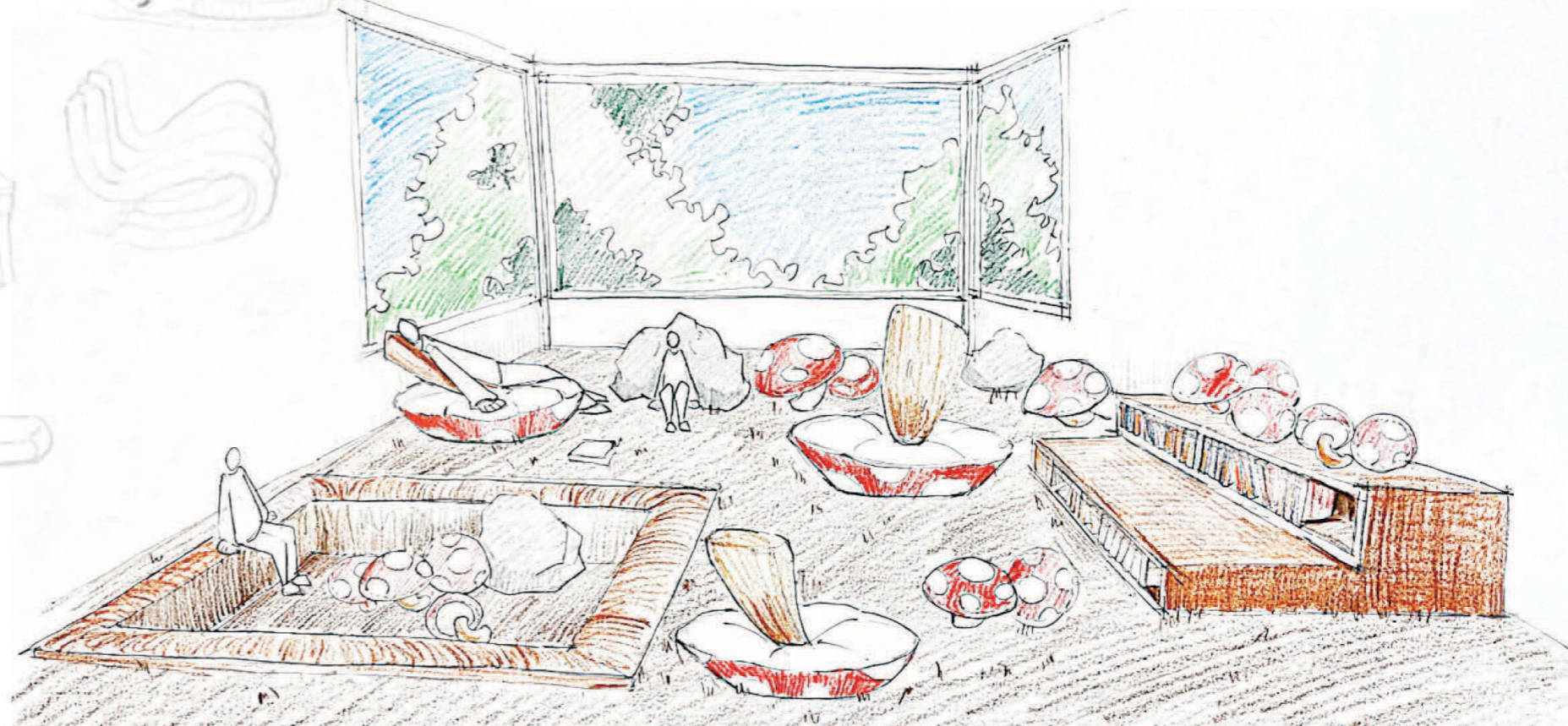
TOKYO OCHANOMIZU
2025.4.1 TUE
POP-UP STORE
NEW OPEN

MUSHROOM CHAIR

キノコの上に座り、
静謐な休息空間を体感する。



キノコの世界を作ること、自然の中にいるような感覚を
与えるチェアや、雨音を奏でるラウンジスペースなど、人々
がリラックスできる空間を作りたい。



POP-UP STORE WORKSHOP

TITLE

雲南コーヒー

— 桃源郷より —

CONCEPT

このポップアップショップでは、少数民族が集中する雲南のコーヒー豆をテーマにしているため、全体的に雲南の少数民族の要素を取り入れたコーヒーショップになっています。

空間には、雲南省産のさまざまなコーヒー豆を展示し、味覚や嗅覚を通して直接体験してもらうとともに、コーヒー教室を設置し、来場者と交流しながらコーヒーや雲南省のコーヒー豆に関する知識を広めていく。

RESEARCH



「雲南の桃源郷コーヒー」は、中国の内陸部、ミャンマーとの国境近くに位置する雲南省 プールからやってきたコーヒーです。中国は人口の9割を漢民族が占めていますが、雲南省プール市には、さまざまな少数民族が暮らしています。豊かな自然が残るこの地域はお茶の産地として有名ですが、中国最大のコーヒー産地でもあります。実に国内生産量の9割以上がプール産。新しい産地として、世界からの注目度が高まっています。

そのなかで海ノ向こうコーヒーがお届けするのは、標高1800m～2000mという高い場所で育った希少なものです。山の中にはすももや桜、お茶なども植えられていて、花の季節には、桃源郷のような美しい景色が広がります。

雲南のコーヒーの特徴は、ブランデーのような芳醇で個性的な香味。独自の発酵プロセスによって生まれる独特の香りに、やみつきになる方も多いです。焙煎度は浅めで、苦味は少なく「お茶のように軽やか」と言われることもしばしば。これまでのコーヒーのイメージが覆されるかもしれません。和菓子との相性が良いのも面白いところです。



POP-UP STORE WORKSHOP

